射水市内遺跡発掘調査報告８

―平成26年度高島Ａ遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他―

2016年

富山県射水市教育委員会

射水市内遺跡発掘調査報告８

― 平成26年度高島Ａ遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他 ―

2016年

富山県射水市教育委員会

天池Ｃ遺跡【①地区】炭焼窯全景　出土遺物（須恵器・鉄滓）

巻首図版２

高島Ａ遺跡【11地区】　出土遺物（弥生土器・古墳土師器）

射水市内遺跡発掘調査報告８

― 平成26年度高島Ａ遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他 ―

2016年

富山県射水市教育委員会

例言

1　本書は、平成26年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2　本発掘調査・試掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。
3　対象となった埋蔵文化財、並びに調査に関する位置・原因・面積・期間等は各章に記した。
4　本書の執筆・編集は、射水市教育委員会生涯学習・スポーツ課主任 田中　明が担当した。
5　遺物整理の従事者は、高瀬直子・開　一美・吉沢泰子である。
6　発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡例

1　本書で用いた座標は世界測地系第Ⅶ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海抜高である。
2　遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。　ＳＤ：溝　ＳＫ：土坑　Ｓ：炭焼窯
3　遺構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の1／4とし、スケールとともにその縮尺を表記した。
4　出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
5　本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
6　第５章第１節における発掘地区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し、種類は次のとおりとした。
●：弥生土器　○：古墳土師器　▽：古代土師器　▲：須恵器　■：珠洲　□：中世土師器
◎：近世陶磁器　⊗：石製品　☆：不明土師器　Ｔ：トレンチ（試掘坑）
7　遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。
■：須恵器・珠洲　■：煤・炭化物

目次

第１章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1
第２章　高島Ａ遺跡本発掘調査 …… 3
第３章　水戸田地区試掘調査 …… 9
第４章　天池Ｃ遺跡工事立会調査 …… 13
第５章　その他の遺跡調査 …… 16
第１節　平成26年度試掘調査概要
１．小杉伊勢領遺跡　２．干田遺跡 …… 18
３．小杉伊勢領遺跡　５．八塚Ｃ遺跡 …… 19
６．新開発遺跡　７．戸破神田遺跡 …… 20
８．小杉焼高畑窯跡　９．黒河尺目遺跡 …… 21
10．戸破神川遺跡　11．黒河尺目遺跡 …… 22
12．黒河尺目西遺跡　13．黒河南遺跡 …… 23
14．金屋畑遺跡　15．六渡寺遺跡 …… 24
16．作道遺跡　17．干田遺跡 …… 25
18．八塚Ｃ遺跡　19．針原東遺跡 …… 26
20．坂東遺跡　21．塚越大沢遺跡 …… 27
22．北高木遺跡　23．加茂社遺跡 …… 28
24．干田遺跡 …… 29

巻首図版目次

巻首図版１　天池Ｃ遺跡【①地区】炭焼窯全景　出土遺物（須恵器・鉄滓）
巻首図版２　高島Ａ遺跡【11地区】出土遺物（弥生土器・古墳土師器）

挿図目次

第１図　射水市の位置 …… 1
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第３図　発掘区位置図［高島Ａ遺跡］…… 3
第４図　遺構実測図［高島Ａ遺跡11地区］…… 5
第５図　遺物実測図［高島Ａ遺跡11地区］…… 6
第６図　遺物実測図［高島Ａ遺跡11地区］…… 7
第７図　調査対象地及び周辺の遺跡 …… 9
第８図　基本層序模式図 …… 10
第９図　トレンチ配置図［水戸田地区試掘調査］…… 11
第10図　遺物実測図［水戸田地区試掘調査］…… 12
第11図　調査対象地及び周辺の遺跡 …… 13
第12図　遺物実測図［天池Ｃ遺跡工事立会調査］…… 14
第13図　遺構実測図［天池Ｃ遺跡工事立会調査］…… 15
第14図　試掘調査位置図 …… 17
第15図　遺物実測図［戸破神田遺跡・黒河尺目西遺跡・黒河南遺跡・坂東遺跡］…… 29
第16図　遺物実測図［針原東遺跡・加茂社遺跡］…… 30
第17図　遺物実測図［北高木遺跡］…… 31

表目次

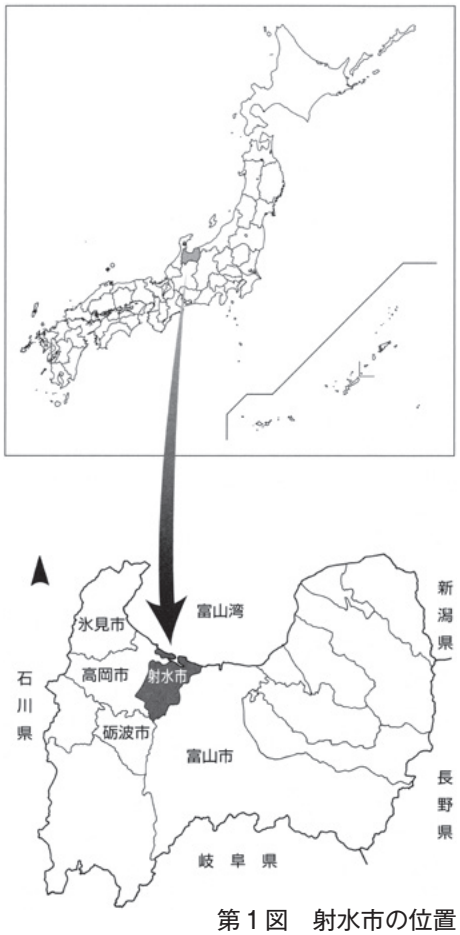
第１表　出土遺物観察表［高島Ａ遺跡11地区］（１～29）…… 8
第２表　出土遺物観察表［水戸田地区試掘調査］（１～７）…… 12
第３表　出土遺物観察表［天池Ｃ遺跡工事立会調査］（１～14）…… 14
第４表　平成26年度埋蔵文化財発掘調査一覧 …… 16
第５表　出土遺物観察表［試掘調査］（１～53）…… 32

図版目次

図版１　高島Ａ遺跡［11地区］　遺構全景・溝ＳＤ01遺物出土状況
図版２　高島Ａ遺跡［11地区］　溝ＳＤ（01・02・03・08・10）・土坑ＳＫ（05・12・15）
図版３　高島Ａ遺跡［11地区］　出土遺物（弥生土器・古墳土師器）
図版４　高島Ａ遺跡［11地区］　出土遺物（須恵器・珠洲・中世土師器）
　　水戸田地区試掘調査　出土遺物（弥生土器・須恵器・珠洲・近世陶器）
図版５　水戸田地区試掘調査　17Ｔ全景・17Ｔ遺構検出・作業状況
図版６　水戸田地区試掘調査　19Ｔ全景・19Ｔ遺構検出・山砂充填状況
図版７　天池Ｃ遺跡工事立会　半地下式炭焼窯〔①地区〕・全景〔②地区〕・土坑〔③地区〕
図版８　天池Ｃ遺跡工事立会　地下式炭焼窯〔③地区〕・出土遺物（須恵器・鉄滓）
図版９　戸破神田遺跡試掘調査　6Ｔ全景・5Ｔ遺構検出・出土遺物（須恵器・土師器・近世陶磁器）
図版10　黒河尺目西遺跡
　　黒河南遺跡試掘調査　調査対象地全景・6Ｔ遺構検出・出土遺物（須恵器・土師器・近世陶磁器）
図版11　針原東遺跡試掘調査　調査対象地全景・1Ｔ遺構検出・出土遺物（古墳土師器）
図版12　坂東遺跡試掘調査　2Ｔ全景・1Ｔ遺構検出・出土遺物（須恵器・珠洲・中世土師器）
図版13　北高木遺跡試掘調査　調査対象地全景・3Ｔ遺構検出・出土遺物（須恵器・珠洲）
図版14　加茂社遺跡試掘調査　5Ｔ全景・2Ｔ遺構検出・出土遺物（古墳土師器・須恵器・珠洲・近世磁器

第１章　遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11㎞、南北約15㎞で総面積109.43㎢である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0～140ｍを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約９万４千人余りである。



第１図　射水市の位置

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11㎞、南北約７㎞の範囲の低湿地帯である。およそ１万～８千年前に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は、海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は気候変化による縄文海進とよばれる海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約５ｍ以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが澱み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境の中で、先人達は集落を形成していったと考えられる。現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂Ａ～Ｄ遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭焼窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島Ａ遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、竪穴建物や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営まれてきたと考えられている。

高島Ａ遺跡は、庄川右岸に形成された標高約1.5ｍ前後の沖積低地に立地し、弥生・古墳時代を主体とする遺跡である。遺構では弥生時代中期の周溝をもつ平地式建物や方形周溝墓、遺物では全国初となる装飾性に富んだ二枚貝を思わせる弥生時代の石製品も出土している。

水戸田地区は市内ほぼ中央域に位置する。東西約0.9㎞、南北約2.3㎞を測り、北部は水田地帯、南部は丘陵地となっている。その丘陵地には全長43ｍの前方後円墳である五歩一古墳や瓦陶兼業窯の国指定史跡小杉丸山遺跡を中心に、古墳時代～古代に至る古墳・須恵器窯・製鉄炉等が確認されている。

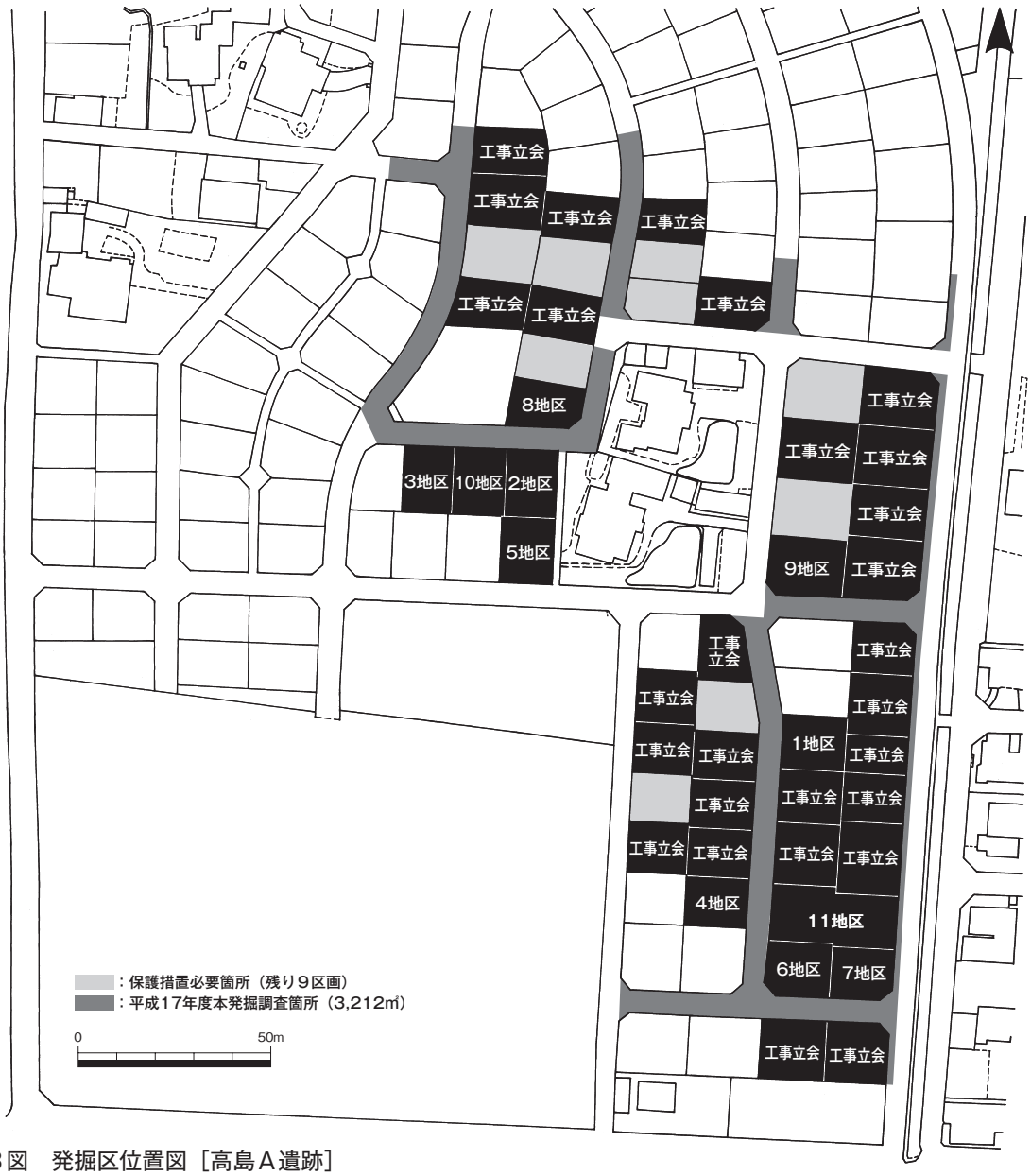
❶高島Ａ遺跡　❷小杉丸山遺跡　❸小杉流通業務団地内遺跡
❹上野南遺跡　❺～❽赤坂Ａ～Ｄ遺跡　❾北高木遺跡
❿二口油免遺跡　⓫小杉伊勢領遺跡　⓬五歩一古墳群

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第２章　高島Ａ遺跡本発掘調査

第１節　調査に至る経緯

平成13年度、新湊市（現射水市）鏡宮地区における土地区画整理事業計画の照会を受けた。平成14年度、事業計画地が埋蔵文化財包蔵地（高島Ａ遺跡）に含まれることから、遺跡保護と工事計画の調整を図る目的で試掘調査を実施した。その結果、計画地南側半分の約25,000㎡を中心に弥生時代中期から古墳時代前期の遺構・遺物を確認した。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、本発掘調査による記録保存が必要との判断を示した。平成17年度、造成工事に先立ち計画道路部分の3,212㎡において本発掘調査を実施した。平成19年度、分譲が開始され宅地49区画で遺跡の保護措置が必要となり、工事が地下遺構に与える影響を判断しながらの対応となった。平成19～25年度で10件、平成26年度１件で計11区画の本発掘調査を完了した。これまでに28件の工事立会も実施し、残り９区画分の保護措置は平成27年度以降の対応となった。



第３図　発掘区位置図［高島Ａ遺跡］

第２節　調査の概要

調査区は造成工事により山砂の盛土がなされているため、まず重機で盛土と旧水田耕作土を除去し、その後に作業員を投入して、遺構検出、遺構掘削、遺物取り上げを順次人力で行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影（高精細デジタル）や遺構概略図（1/100）、遺構断面図・遺構平面図（1/20）作成等の記録図化作業を実施した。調査終了後は、埋め戻しを行い現状復帰を図っている。その際に住宅基礎工事の改良掘削深度より深い遺構が検出された地区では、不同沈下防止のため新たな山砂を充填し重機で踏み固めている。

調査区の基本層序は１～３層に分層される。上から１層は山砂の造成盛土、２層は山砂の下の旧水田耕作土、３層は灰黄色（2.5Y7/2）シルトの地山である。遺構は全て３層から掘り込まれている。

第３節　遺構と遺物［11地区］

１号溝（ＳＤ01、第４～６図、図版１～３）

調査区西側に位置し、南東－北西方向に向けて直線的に流れる溝である。全長6.5m、幅1.8m～2.2m、深さは最深で22㎝を測る。覆土は上層に黄灰色粘質シルト、下層に黒色粘質シルトが堆積する。南側隣接調査区（６地区）で検出した１号溝（SD01）の繋がりと考えられ、北端は調査区外へのびる。遺物は弥生土器・須恵器が出土。第５図２・４・５は長野県中野市栗林式土器の搬入品と考えられる。弥生時代中期後半の壺で、口縁部に縄文・羽状文・沈線文などを施文している。

３号溝（ＳＤ03、第４・６図、図版１・２・４）

調査区西側に位置し、南東－北西方向に向けて緩やかで曲線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長７m、幅58㎝～82㎝、深さは最深で10㎝を測る。覆土は地山層が混在する黄灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器・須恵器・中世土師器が出土。第６図21は須恵器の壺又は甕の破片、24は口径7.0㎝を測る中世土師器の灯明皿である。

10号溝（ＳＤ10、第４・６図、図版１・２・４）

調査区中央部に位置し、南西－北東方向に向けて直線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長7.1m、幅28㎝～62㎝、深さは最深で27㎝を測る。途中で８号溝によって掘りこまれており、開削時期は８号溝より古い。覆土は地山層が混在する黄灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器・中世土師器が出土。第６図23は口径7.6㎝を測る中世土師器の灯明皿である。

５号土坑（ＳＫ05、第４・６図、図版１～３）

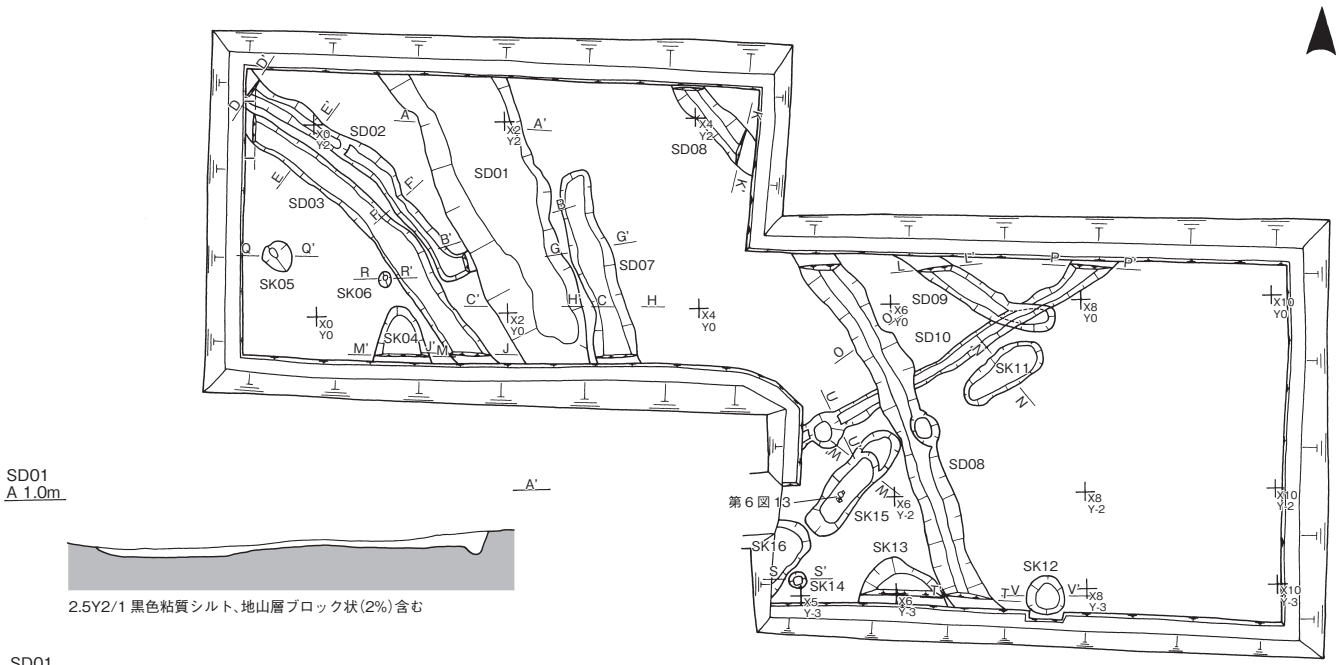
調査区西端部に位置し、直径約58㎝を測る円形土坑である。深さは17㎝で、覆土は上層に地山層が混在する黄灰色シルト、下層に灰黄色シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土。第６図８は口縁部外面に擬凹線を施す弥生時代後期後半の甕である。

12号土坑（ＳＫ12、第４図、図版１・２）

調査区東側に位置する、直径約80㎝、深さ47㎝を測る円形土坑である。断面は逆台形状を呈し、覆土は地山層が混在する黄灰色粘質シルトが堆積する。湧水が著しいため井戸の可能性も考えられる。遺物は図化できるものは無かったが、弥生土器片が出土している。

15号土坑（ＳＫ15、第４・６図、図版１～３）

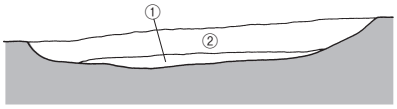
調査区中央部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸270㎝、短軸75㎝、深さは最深で24㎝を測る。断面は逆台形状を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトに炭化物・地山層が混在する。遺物は古墳土師器が出土している。第６図12は外面に煤が付着している「く」の字甕。13は球胴で丸底、口径11.4㎝を測る直口壺。14はＳ字状のスタンプ文を施す器台。15は口径21.5㎝を測る有段高坏。



SD01
A 1.0m

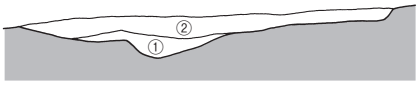
2.5Y2/1 黒色粘質シルト、地山層ブロック状(2%)含む

SD01
B 1.1m



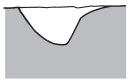
①2.5Y2/1 黒色粘質シルト　②2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト

SD01
C 1.1m



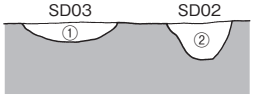
①2.5Y2/1 黒色粘質シルト　②2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト

SD02
D 1.2m



2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、地山層(7.5Y6/2
灰オリーブ色シルト)ブロック状(5%)含む

SD03　SD02
E 1.2m



①2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、地山層ブロック状(10%)含む
②2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、地山層ブロック状(3%)含む

SD02
F 1.2m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(2%)含む

SD07
G 1.1m

SD07
H 1.1m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、地山層ブロック状(1%)含む

SD03
I 1.2m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(3%)含む

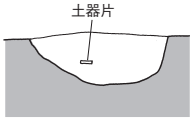
SD03
J 1.2m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(30%)含む

SD08
K 1.1m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(5%)含む

SD09
L 1.1m



2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、炭化物粒状(1%)
地山層ブロック状(3%)含む

SK04
M 1.2m

2.5Y4/1 黄灰色シルト

SK11
N 1.1m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(7%)含む

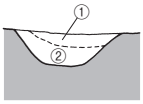
SD08
O 1.1m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(2%)含む

SD10
P 1.1m

2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(3%)含む

SK05
Q 1.2m



①2.5Y5/1 黄灰色シルト、地山層ブロック状(5%)含む
②2.5Y6/2 灰黄色シルト

SK06
R 1.2m

2.5Y5/1 黄灰色シルト

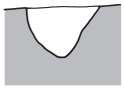
SK14
S 1.1m

2.5Y4/1
黄灰色粘質シルト

SD08
T 1.1m

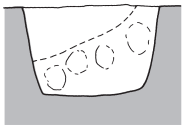
2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
地山層ブロック状(3%)含む

SD10
U 1.1m



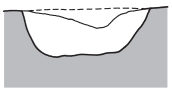
2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、炭化物粒状(1%)
地山層ブロック状(5%)含む

SK12
V 1.1m



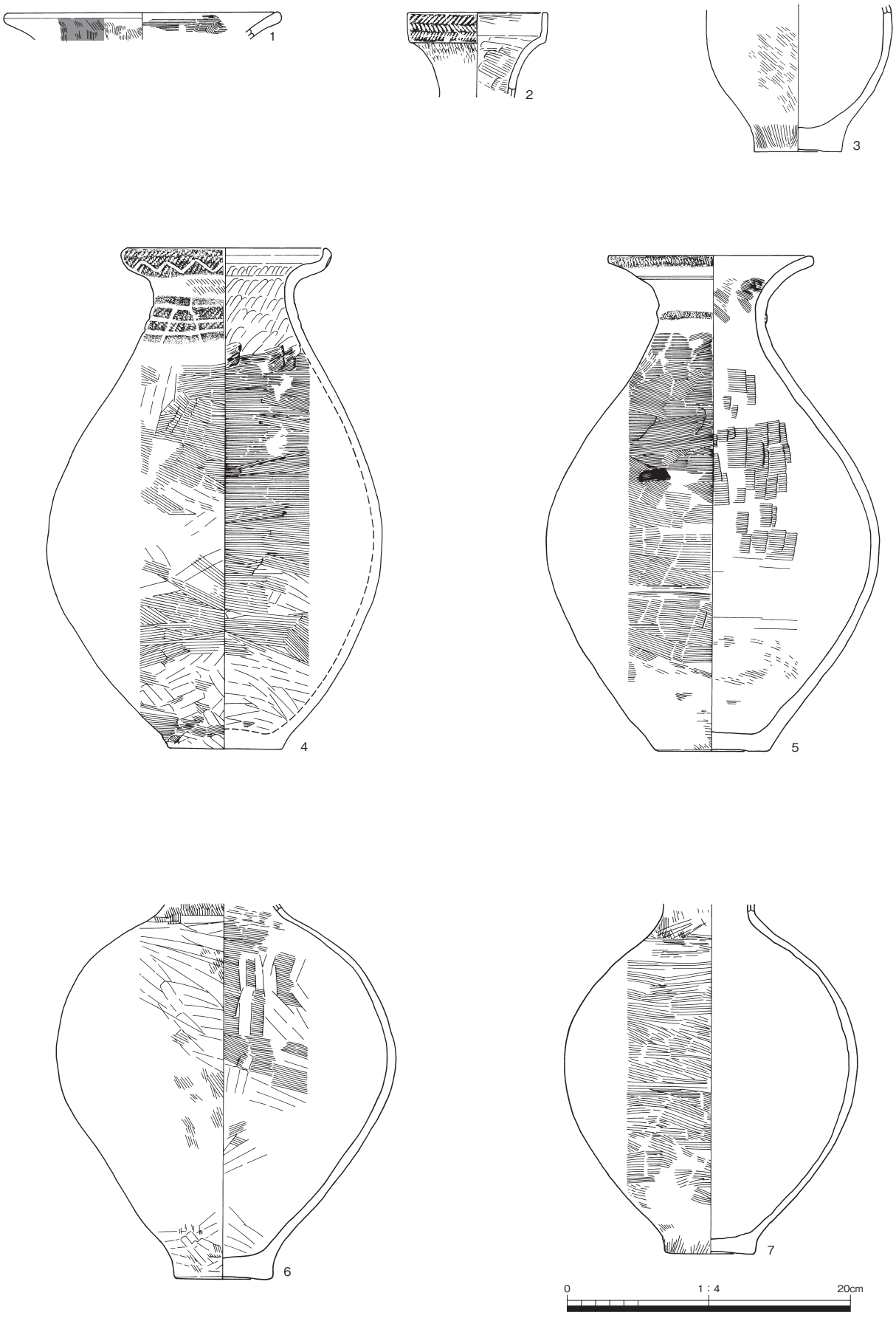
2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、地山層
円形ブロック状(70%)含む

SK15
W 1.0m

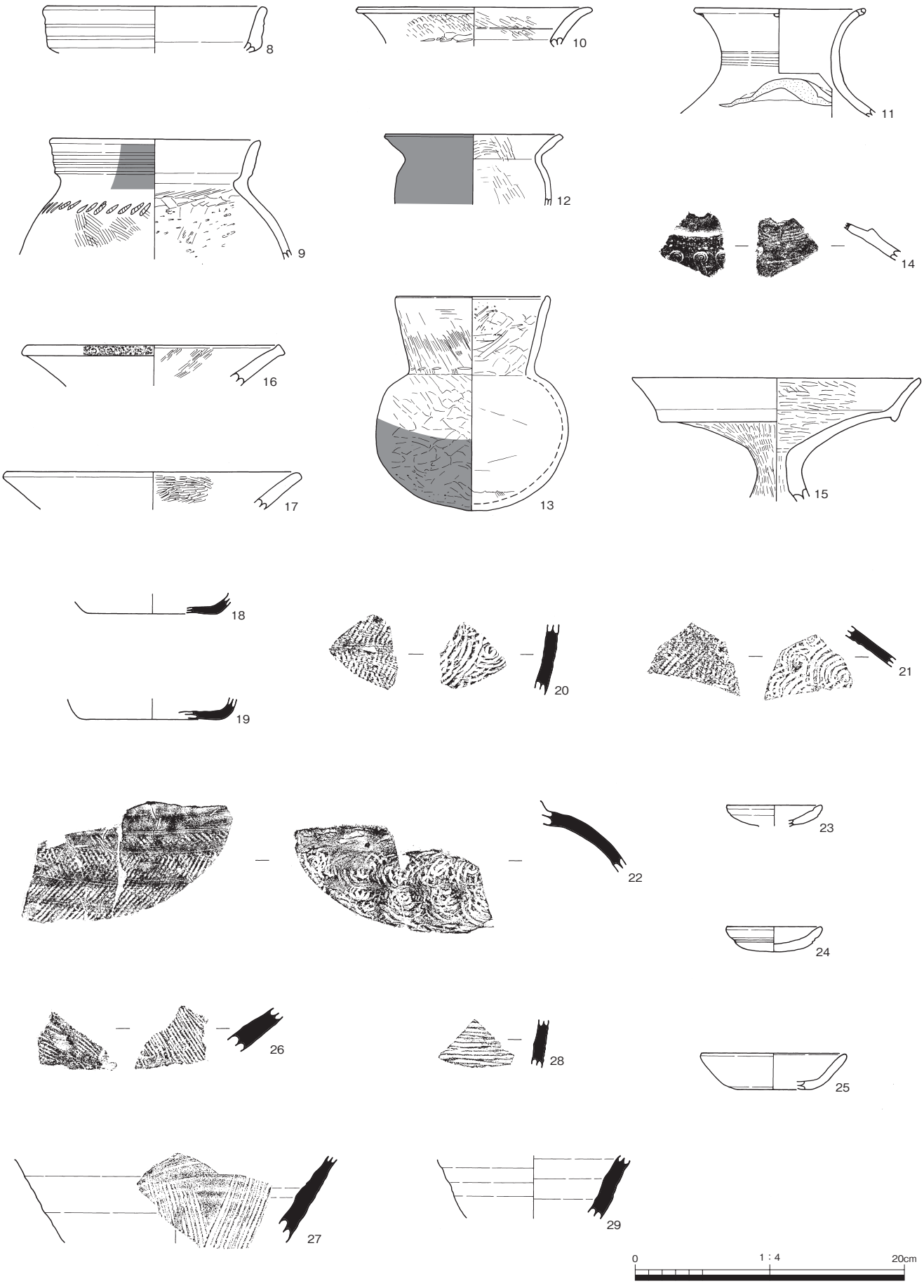


2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、炭化物粒状(1%)
地山層ブロック状(3%)含む

第４図　遺構実測図［高島Ａ遺跡11地区］（1/160、断面図1/40）



第５図　遺物実測図［高島Ａ遺跡11地区］（1/4）



第６図　遺物実測図［高島Ａ遺跡11地区］（1/4）

図版	No.	出土遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第5図	1	SD01	弥生土器	甕	19.2			外面煤付着	口1/10
	2	SD01	弥生土器	壷	9.4			縄文　羽状文　栗林式	口1/4
	3	SD01	弥生土器	甕(壷)			6.1		底完存
	4	SD01	弥生土器	壷	14.2	36.0	8.2	縄文　沈線文　栗林式	ほぼ完存
	5	SD01	弥生土器	壷	14.4	35.4	8.1	縄文　栗林式	ほぼ完存
	6	SD01	弥生土器	壷			7.0		体3/4　底完存
	7	SD01	弥生土器	壷			6.3		体5/6　底完存
第6図	8	SK05	弥生土器	甕	16.2			擬凹線文	口1/8
	9	SK16	弥生土器	甕	15.5			外面煤付着　擬凹線文　刻み目文	口4/5　体5/8
	10	SK13	古墳土師器	甕	17.4				口1/16
	11	SD07	古墳土師器	壷	12.3			穿孔3箇所	口3/4
	12	SK15	古墳土師器	甕	13.0			外面煤付着	口1/6
	13	SK15	古墳土師器	壷	11.4	16.1		外面煤付着	口1/2　底完存
	14	SK15	古墳土師器	器台				Ｓ字状スタンプ文	破片
	15	SK15	古墳土師器	高坏	21.5				口1/2
	16	X6・Y1	古墳土師器	甕	18.6			竹管文	口1/12
	17	表土剥ぎ	古墳土師器	甕	21.6				口1/14
	18	表土剥ぎ	須恵器	坏			10.2		底1/8
	19	SD01	須恵器	坏			10.6		底1/5
	20	X4・Y0	須恵器	甕(壷)				青海波文	破片
	21	SD03	須恵器	甕(壷)				青海波文	破片
	22	表土剥ぎ	須恵器	甕				青海波文	破片
	23	SD10	中世土師器	皿	7.6				口1/4
	24	SD03	中世土師器	皿	7.0				口1/2
	25	X6・Y-3	中世土師器	皿	10.8	2.7	6.8		口3/8
	26	SD02	珠洲	片口鉢				卸目	破片
	27	X3・Y1	珠洲	片口鉢				卸目12条	破片
	28	表土剥ぎ	珠洲	甕(壷)					破片
	29	表土剥ぎ	珠洲	壷					破片

第1表　出土遺物観察表［高島A遺跡11地区］　　口：口縁部　　底：底部　　体：体部

参考文献

金三津英則他　2006年『高島A遺跡発掘調査報告書－鏡宮高島土地区画整理事業に伴う発掘調査－』 射水市教育委員会

金三津英則他　2007年『高島A遺跡発掘調査報告－射水市立新湊南部中学校用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－』射水市教育委員会

田中　明他　2010年『射水市内遺跡発掘調査報告Ⅱ－高島A遺跡・松木遺跡・千田遺跡本発掘調査他－』射水市教育委員会

田中　明他　2011年『射水市内遺跡発掘調査報告Ⅲ－高島A遺跡本発掘調査・土合地区分布調査他－』射水市教育委員会

田中　明他　2012年『射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ－高島A遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他－』射水市教育委員会

稲垣尚美他　2015年『射水市内遺跡発掘調査報告7－平成25年度高島A遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他－』射水市教育委員会

第３章　水戸田地区試掘調査

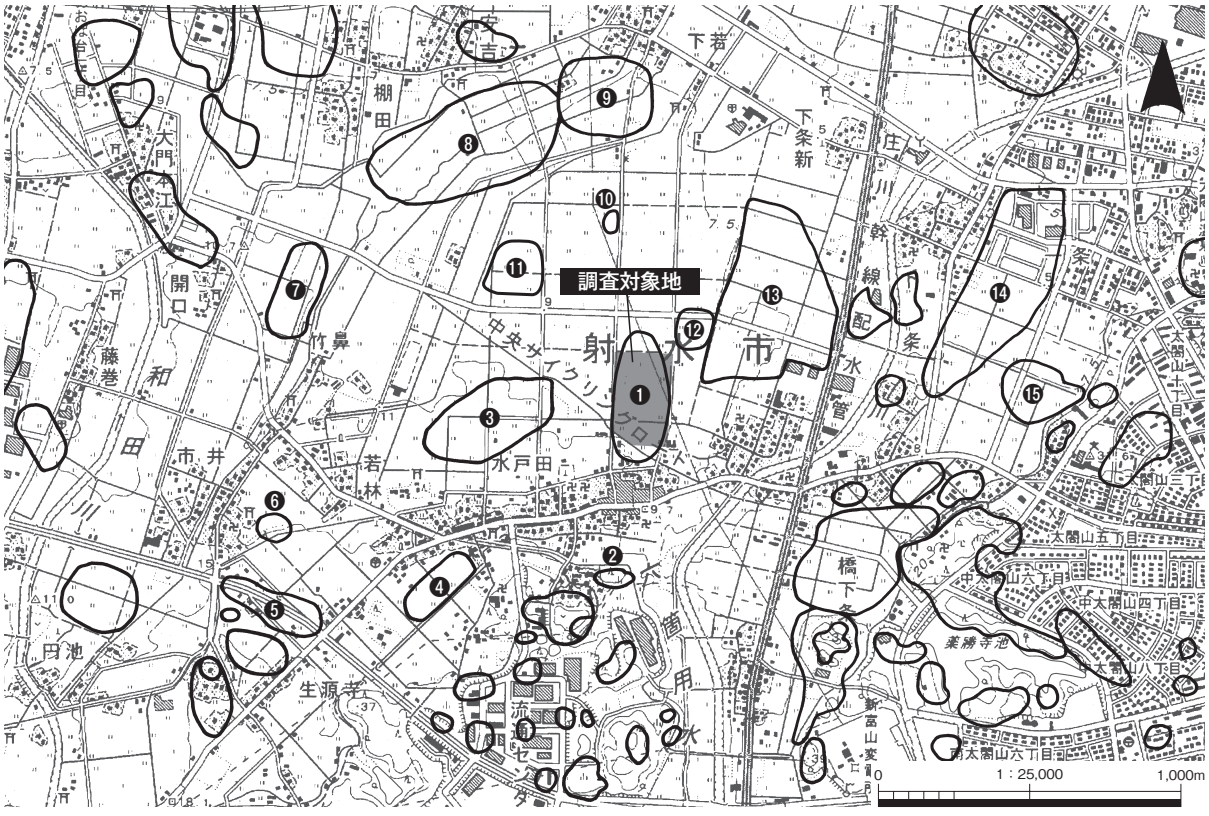
第１節　調査に至る経緯と調査の経過

平成22年10月、富山県高岡農林振興センターから、射水市水戸田地区における県営ほ場整備事業の実施に係る事前協議を受けた。事業は、平成24年度から30年度までの７か年計画であり、地区内の農道・用排水路等の撤去・新設及び水田の切土・盛土を含み、大区画ほ場へ再整備するものである。

事業計画地縁辺部においては、周知の埋蔵文化財包蔵地として本田宮田遺跡・本田畑田遺跡・水戸田遺跡・生源寺Ⅱ遺跡・生源寺Ⅲ遺跡・大白北遺跡・水戸田神明堂遺跡が知られていたが、事業計画地内の大部分を占める水田部においては発掘調査実績が少なく、埋蔵文化財に関する情報が不足していた。そのため、事業計画地全域の約69haを対象として、小規模なトレンチ発掘を併用した分布調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲を含めた遺構面及び旧地形の遺存状況と、埋蔵文化財の大まかな範囲を把握したうえで、事業計画との調整を図ることとなった。

分布調査は、射水市教育委員会が主体となって、平成23年10月13日から11月16日にかけて実施した。調査の結果、既存の埋蔵文化財包蔵地に加え、遺構・遺物の分布や旧地形の状況等から、複数個所において、古代・中世を中心とした埋蔵文化財包蔵地の存在が想定でき、約28haの範囲で試掘調査による埋蔵文化財の範囲及び遺存状況等の確認が必要となった。

その後、事業者との協議を重ね、調査対象範囲が広大であること、年間の調査期間が収穫後の秋以降に限られることから、平成24～26年度の３か年計画で、射水市教育委員会が主体となって試掘調査を実施することとなった。最終年度の平成26年度は46,279㎡を調査対象地として実施した。



第７図　調査対象地及び周辺の遺跡（1：25,000）

❶水戸田遺跡　❷水戸田神明堂遺跡　❸生源寺Ⅱ遺跡　❹生源寺Ⅲ遺跡　❺生源寺遺跡　❻市ノ井東遺跡　❼縄田遺跡　❽本田宮田遺跡
❾本田畑田遺跡　❿水戸田前野遺跡　⓫水戸田惣分Ⅱ遺跡　⓬水戸田惣分Ⅰ遺跡　⓭大白北遺跡　⓮赤田Ⅰ遺跡　⓯赤田東遺跡

第２節　調査の方法

試掘調査では、山積0.28㎥のバックホウを使用して、幅約1.0m、長さ10.3m～45.6mの試掘トレンチを任意に設置し、遺構面と考えられる層まで掘り下げた。バックホウによる掘削の後、人力によりトレンチ床面及び壁面の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認するとともに、土層断面の実測及び写真撮影により記録を作成した。

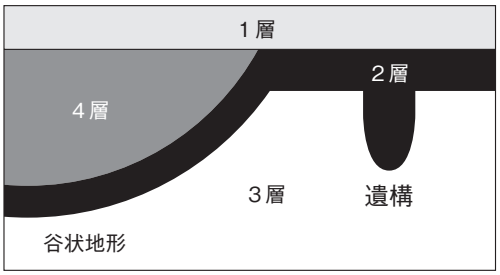
大区画ほ場を整備するという事業の性格上、水田面の平行を確保するための切土・盛土調整が伴うこととなるため、試掘調査では遺構の平面的な広がりに加え、特に遺構面標高値の測定に高い精度が求められた。測量精度の確保及びほ場整備事業計画との整合を図るため、試掘トレンチの平面位置測量及び標高基準面測量は測量業者に委託して実施し、測量原点となる標高点及び基準点には、ほ場整備事業に伴って設置された既設点を使用した。

第３節　調査の概要

第１項　基本層序（第８図）

調査対象地は射水平野南部、和田川と下条川に挟まれた沖積地で標高8.0m～9.1mに位置する。

基本層序は上層から１層が暗灰黄色砂の水田耕土。２層が黒色粘質シルトの自然堆積層であり遺構覆土。３層が灰白色粘質シルトの地山層。４層が黒褐色腐植シルトの自然堆積層。植物遺体を含み締まりがなく、湧水を伴い、谷状地形にのみ堆積を確認した。



第８図　基本層序模式図

第２項　遺構・遺物及び調査のまとめ（第９・10図、図版４～６）

平成23年度実施の分布調査結果のとおり、谷状地形（８・10・12Ｔの各北側、22～27・28～30Ｔの各北側）が複数入り込んでいる状況を確認した。また、16～21・28～30Ｔの各南側においては保護措置が必要な遺構・遺物を確認した。17Ｔでは検出した溝状遺構から須恵器・珠洲焼（第10図３・７）、19Ｔでは地山層直上から須恵器（第10図１・２）が出土した。検出した遺構の帰属時期は古代と考えられ、谷状地形を避けた平坦かつ一段高い場所に小規模な遺構群が広がっている状況が窺える。

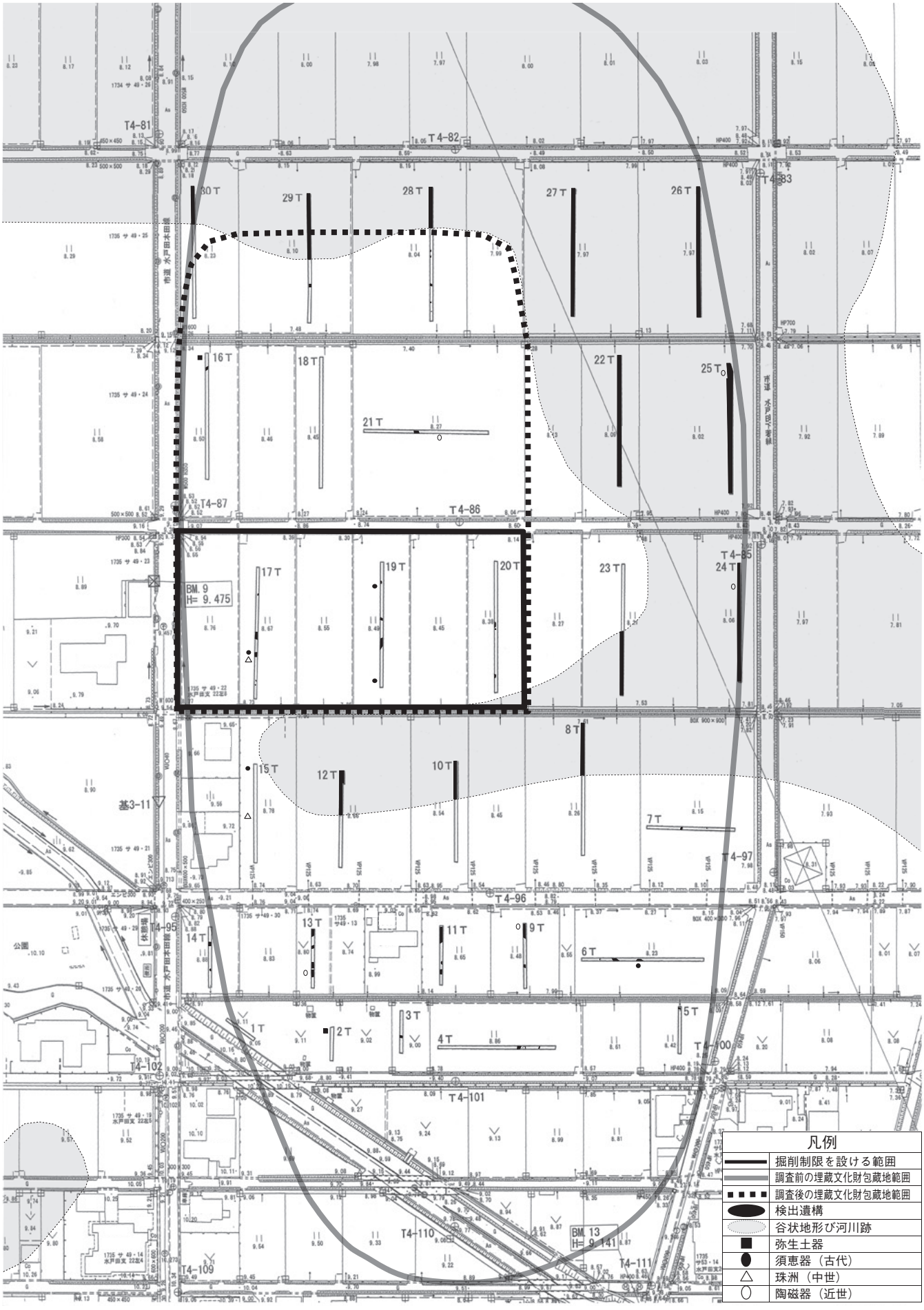
今回の試掘調査結果から、掘削制限をかけるほ場範囲を17・19・20Ｔ含む東西６反分に設定した。水戸田遺跡は16～21・28～30Ｔの各南側においてのみ、その遺跡の広がりが確認できたために、周知の埋蔵文化財包蔵地を大幅に範囲縮小した。

参考文献

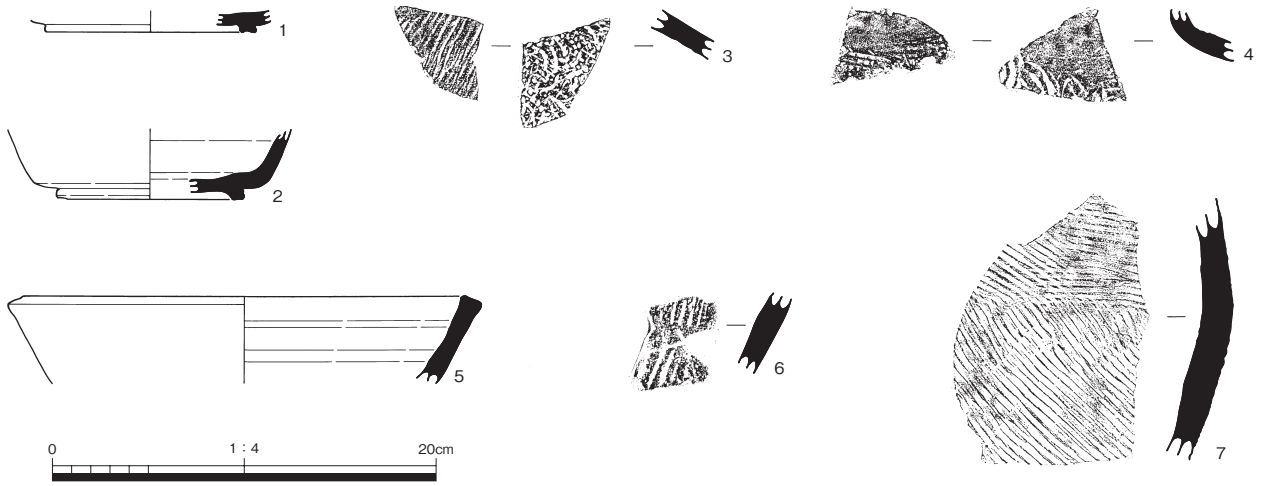
田中　明他　2013年『射水市内遺跡発掘調査報告Ⅴ －水戸田地区分布調査・大乗妙典塔一字一石経調査他－』射水市教育委員会

田中　明他　2014年『射水市内遺跡発掘調査報告６ －平成24年度水戸田地区ほ場整備に伴う試掘調査他－』射水市教育委員会

稲垣尚美他　2015年『射水市内遺跡発掘調査報告７－平成25年度高島Ａ遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他－』射水市教育委員会



第９図　トレンチ配置図［水戸田地区試掘調査］



第10図　遺物実測図［水戸田地区試掘調査］（1/4）

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第10図	1	19T	須恵器	坏			11.0		底1/16
	2	19T	須恵器	坏			8.8	焼成不良　にぶい黄橙色	底1/4
	3	17T	須恵器	甕(壷)				青海波文	破片
	4	6T	須恵器	壷				青海波文	破片
	5	15T	珠洲	片口鉢	23.0				口1/16
	6	15T	須恵器	甕(壷)					破片
	7	17T	珠洲	甕					破片

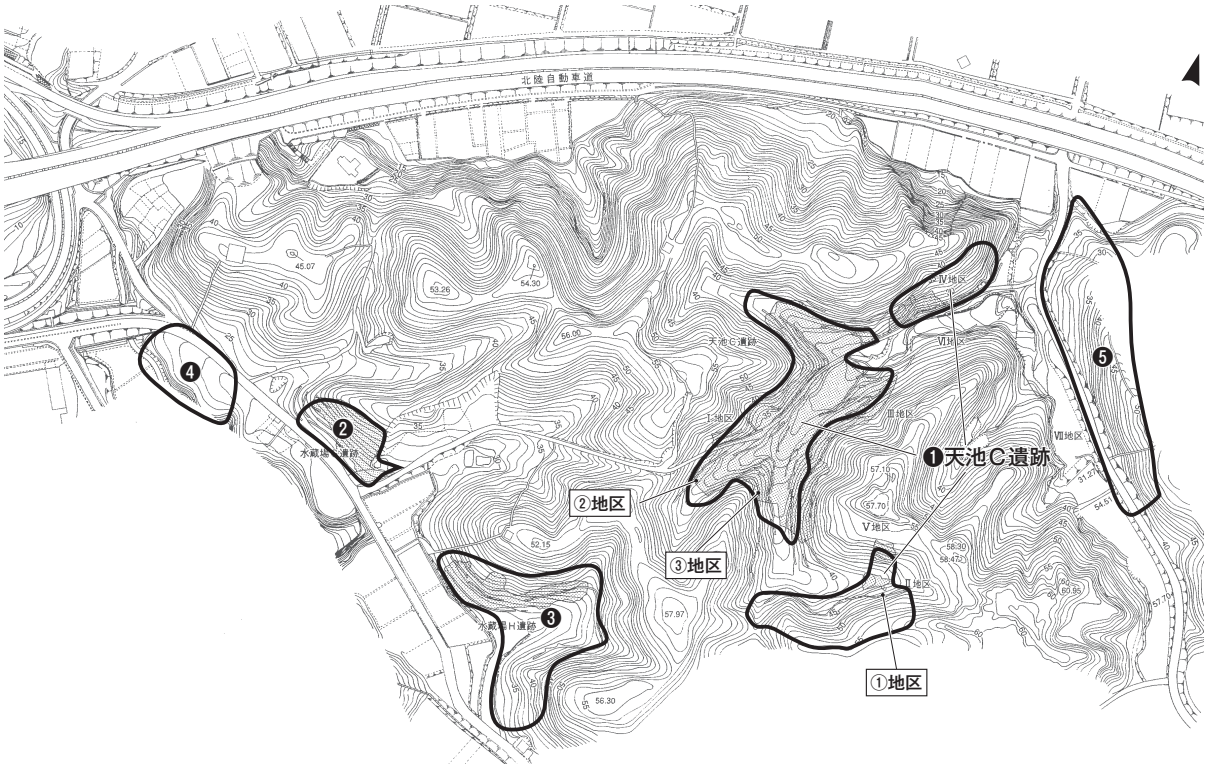
第2表　出土遺物観察表［水戸田地区試掘調査］

口：口縁部　　底：底部

第４章　天池Ｃ遺跡工事立会調査

第１節　調査に至る経緯と調査の経過

平成24年７月、小杉インターパーク内において計画されている造成工事に係る事前協議を受けた。事業計画地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地として天池Ｃ遺跡・水蔵場Ｇ遺跡・水蔵場Ｈ遺跡などがあり、平成４・５年度に大規模な本発掘調査を実施、記録保存が完了している地区であった。従って、現況地形の改変を伴う掘削工事（斜面工事[切土・盛土]・調整池）の有無により、遺構が検出された箇所での工事立会を実施する方向で協議を進めた。その後、平成26年７月から造成工事の伐採・伐根後に踏査し、天池Ｃ遺跡内において遺構を検出した３地区において調査を実施した。



第11図　調査対象地及び周辺の遺跡

❶天池Ｃ遺跡　❷水蔵場Ｇ遺跡　❸水蔵場Ｈ遺跡　❹水蔵場Ｉ遺跡　❺天池Ｅ遺跡

第２節　調査の方法

遺構が検出された３地区に順次、作業員を投入して遺構掘削・遺物取り上げを人力で行った。進捗状況に応じて写真撮影（高精細デジタル）や遺構断面図・遺構平面図（1/20）作成等の記録図化作業を実施した。測量原点となる標高点及び基準点は、開発業者が設置した既設点を使用した。

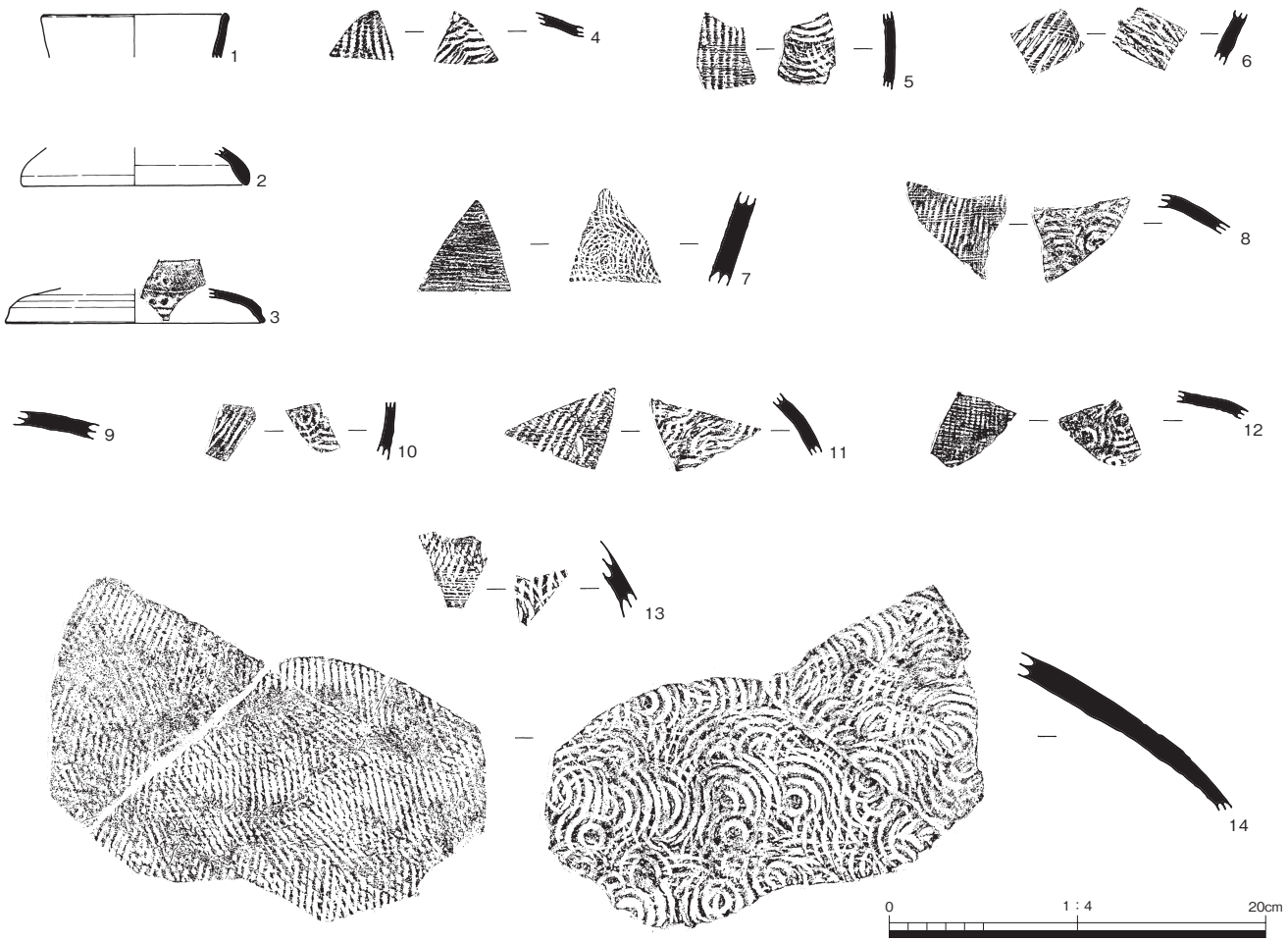
第３節　調査のまとめ（第12・13図、図版７・８）

①地区では炭焼窯跡１基を確認した。平成４年本発掘調査、Ⅱ地区Ｓ－01炭焼窯跡の続きである。主軸はＮ－53°－Ｗをとり、窯体の長さ5.8m（全8.3m）、奥壁の幅1m、比高差1.1m（計3.4m）の半地下式炭焼窯。側壁と奥壁に1箇所ずつ煙出しを確認し、床面の排水溝はなかった。側壁煙出し底面から須恵器（第12図13・14）が出土。②地区では遺構検出時に須恵器や鉄滓（第12図1～12）が出土。須恵器窯や製鉄炉が考えられたので範囲を拡張したが、遺構は確認されなかった。③地区では地下式

の炭焼窯跡と土坑を１基ずつ確認した。炭焼窯は全長7.1m、遺構検出面からの深さは奥壁で2.1mを測る。炭焼窯の東側壁を掘り込む土坑は、出土遺物がなく時期不明である。

参考文献

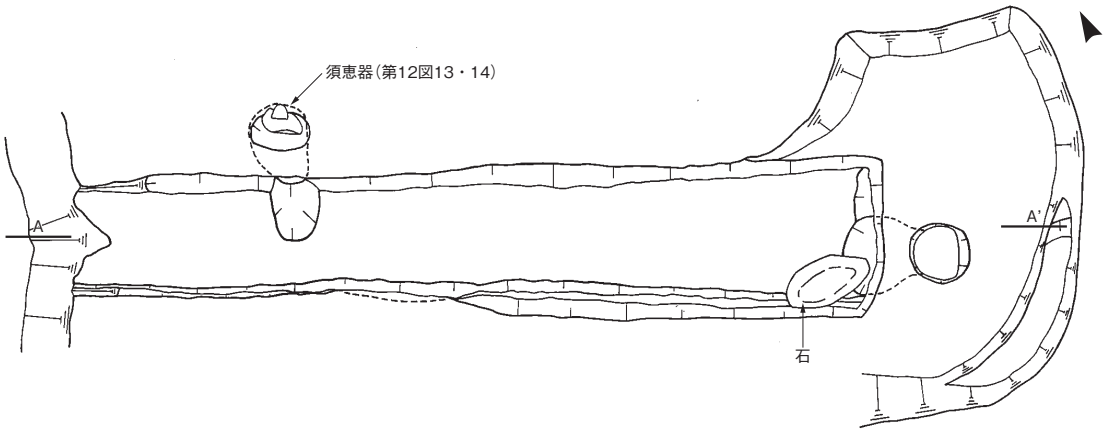
原田義範他　2002年『天池Ｃ遺跡・水蔵場Ｇ遺跡・水蔵場Ｈ遺跡発掘調査概要
－小杉インターパーク造成事業に先立つ埋蔵文化財調査－』小杉町教育委員会

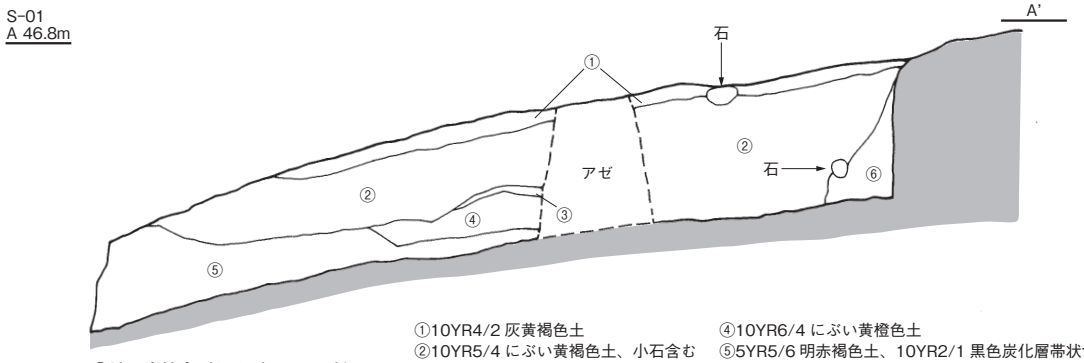


第12図　遺物実測図［天池Ｃ遺跡工事立会調査］（1/4）

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第12図	1	②地区	須恵器	坏	9.8			自然釉付着	口縁部1/8
	2	②地区	須恵器	蓋	12.0			自然釉付着	口縁部1/12
	3	②地区	須恵器	蓋	13.8			自然釉付着	口縁部1/12
	4	②地区	須恵器	壷(瓶)				青海波文	破片
	5	②地区	須恵器	壷(瓶)				青海波文	破片
	6	②地区	須恵器	壷(瓶)				青海波文	破片
	7	②地区	須恵器	甕				青海波文	破片
	8	②地区	須恵器	瓶				自然釉付着　青海波文	破片
	9	②地区	須恵器	壷(瓶)					破片
	10	②地区	須恵器	壷(瓶)				青海波文	破片
	11	②地区	須恵器	壷(瓶)				青海波文	破片
	12	②地区	須恵器	壷(瓶)				青海波文	破片
	13	①地区	須恵器	壷(瓶)				青海波文	破片
	14	①地区	須恵器	瓶				青海波文	破片

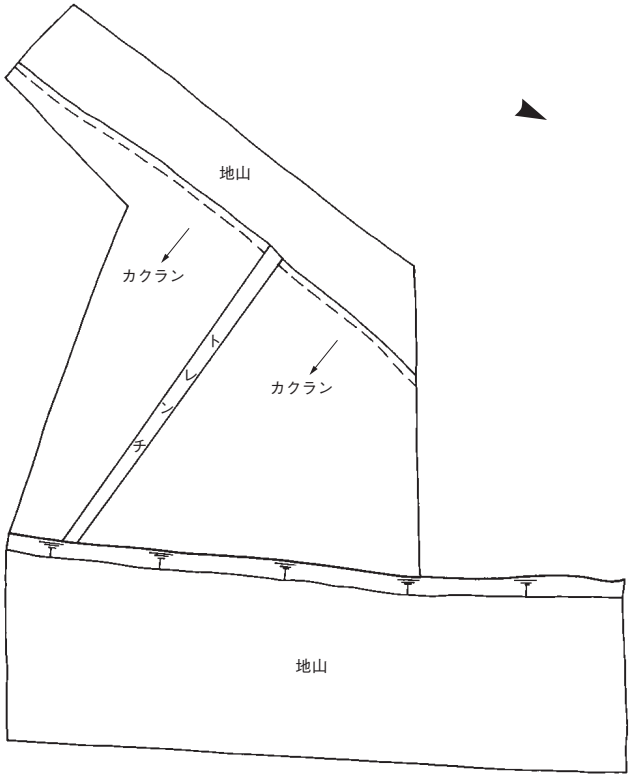
第３表　出土遺物観察表［天池Ｃ遺跡工事立会調査］



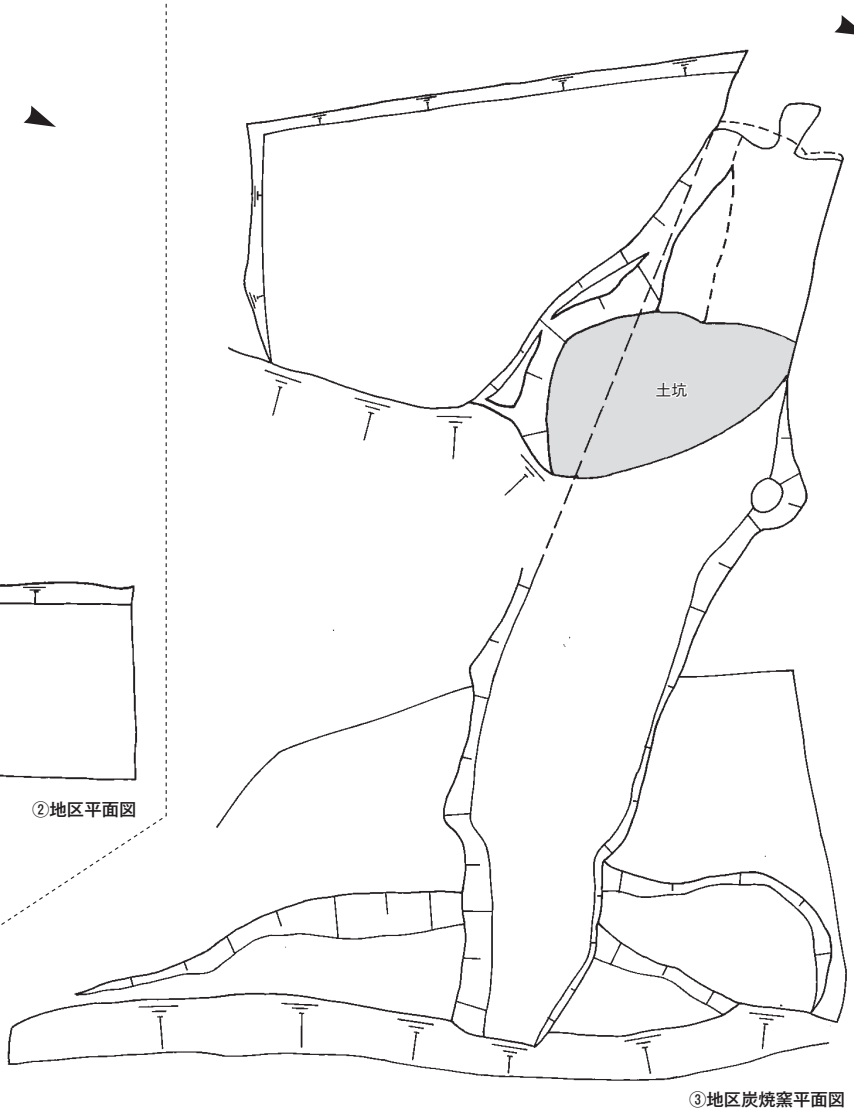


①地区炭焼窯（S-01）平面・断面図

①10YR4/2 灰黄褐色土
②10YR5/4 にぶい黄褐色土、小石含む
③5YR5/3 にぶい赤褐色土
④10YR6/4 にぶい黄橙色土
⑤5YR5/6 明赤褐色土、10YR2/1 黒色炭化層帯状含む
⑥7.5YR5/4 にぶい褐色土



②地区平面図



③地区炭焼窯平面図

第13図　遺構実測図［天池C遺跡工事立会調査］

第５章　その他の遺跡調査

平成26年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、試掘調査24件・本発掘調査１件・工事立会23件であった。傾向としては、試掘調査件数が昨年度比較で1.6倍増加、調査原因は宅地造成含む個人専用住宅建築がその５割を占める結果となった。調査後の措置では、試掘調査３件において遺跡の広がりが確認されたため、盛土保存や本発掘調査の対応で協議を行った。

試掘調査

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	調査後の措置
1	小杉伊勢領 211087	三ケ2566　外１筆	集合住宅建設	H26.5.30	440.0㎡	17.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
2	千田 211259	青井谷92－１	個人専用 住宅建設	H26.6.10	473.0㎡	33.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
3	小杉伊勢領 211087	三ケ2231－１	集合住宅建設	H26.9.8	440.0㎡	32.4㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
4	水戸田 211376	水戸田293番地 外75筆	県営ほ場整備	H26.9.16～22	46,279.0㎡	981.9㎡	散布地	古代溝 不明溝・不明土坑	弥生土器・古代須恵器 中世珠洲・近世越中瀬戸 近現代磁器	保存協議中
5	八塚Ｃ 211448	八塚1100番１	個人専用 住宅建築	H26.9.24	227.64㎡	5.5㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
6	新開発 211444	新開発424	駐車場整備	H26.10.8	1,080㎡	25.5㎡	散布地	なし	なし	工事実施 （支障なし）
7	戸破神田 211082	戸破字神田4014番 外11筆	宅地造成	H26.10.15･16	3,916㎡	249.0㎡	散布地	不明溝・不明土坑	古代須恵器・近世陶磁器 不明土師器・不明石臼	工事実施 （支障なし）
8	小杉焼 高畑窯跡 211421	戸破4114番地	集合住宅建設	H26.10.28･29	2,381.84㎡	63.5㎡	窯	不明溝・不明土坑	なし	工事実施 （支障なし）
9	黒河尺目 211104	中老田新字星丸 621－1　外12筆	店舗建設	H26.11.5･18	2,472.59㎡	45.5㎡	散布地 集落	不明土坑	なし	工事実施 （支障なし）
10	戸破神川 211354	戸破2475番地	放課後児童 クラブ室建設	H26.11.11	101.0㎡	8.0㎡	散布地	なし	なし	工事実施 （支障なし）
11	黒河尺目 211104	黒河字前田477 外2筆	個人専用 住宅建築	H26.11.11	372.0㎡	11.5㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
12	黒河尺目西 211128	黒河字尺目3062番 外84筆	宅地造成	H26.11.17･18	13,367.23 ㎡	371.6㎡	集落	不明溝・不明土坑	古代須恵器・近世陶磁器	工事実施 （支障なし）
13	黒河南 211127	黒河字尺目3007番 外９筆	宅地造成	H26.11.19	3,098.8㎡	64.6㎡	散布地	なし	古代須恵器・不明土師器	工事実施 （支障なし）
14	金屋畑 211060	緑町15番１	宅地造成	H26.11.21	624.36㎡	24.0㎡	散布地	なし	なし	工事実施 （支障なし）
15	六渡寺 211061	庄西町一丁目634番1 外４筆	宅地造成	H26.11.27	1,271.56㎡	54.4㎡	散布地	なし	なし	工事実施 （支障なし）
16	作道 211030	作道456番	個人専用 住宅建築	H26.12.8	429.0㎡	28.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
17	千田 211259	青井谷131番１	個人専用 住宅建築	H26.12.8	272.0㎡	20.8㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
18	八塚Ｃ 211448	八塚466－３	雨水幹線 整備事業	H27.1.7	29.0㎡	9.0㎡	散布地 集落	不明土坑	なし	工事実施 （支障なし）
19	針原東 211085	手崎字針原308番 外２筆	作業工場建設	H27.1.16	2,492㎡	138.4㎡	散布地 集落	古墳土坑 不明溝・不明土坑	古墳土師器・近世陶器 不明土師器	工事実施 （支障なし）
20	坂東 211048	寺塚原662番 外１筆	資材置場造成	H27.2.20	3,000㎡	170.0㎡	散布地	中世溝・中世土坑 不明溝・不明土坑	古代須恵器・中世珠洲 中世土師器	工事実施 （支障なし）
21	塚越大沢 211138	塚越1279－３ 外２筆	個人専用 住宅建築	H27.2.23	231.17㎡	7.8㎡	散布地 製鉄	なし	なし	工事実施 （支障なし）
22	北高木 211433	北高木541番1	資材置場造成	H27.3.9･10	947.0㎡	110.7㎡	集落 祭祀・鋳造	古代溝	古代須恵器・古代土師器 中世珠洲	工事実施 （盛土保存）
23	加茂社 211088	三ケ2669　外1筆	宅地造成	H27.3.25	1,947.87㎡	135.5㎡	散布地 集落	古墳溝 古代溝・古代土坑 不明溝・不明土坑	古墳土師器・古代須恵器 中世珠洲・近世磁器	保存協議中
24	千田 211259	青井谷16－１ 外17筆	市道改良	H27.3.27	743.0㎡	42.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 （支障なし）
計	19遺跡24件		対象面積　86,636.06㎡			発掘面積　2,649.6㎡				

本発掘調査

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物
1	高島Ａ 211027	鏡宮弥生２丁目98 外２筆	個人専用 住宅建築	H26.5.7～5.28	191.0㎡	集落	弥生溝・弥生土坑・古墳土坑	弥生土器・古墳土師器・古代須恵器 中世珠洲・中世土師器
計	1遺跡1件		発掘面積　191.0㎡					

第４表　平成26年度埋蔵文化財発掘調査一覧

❶～㉔は第４表試掘調査の番号を示す。

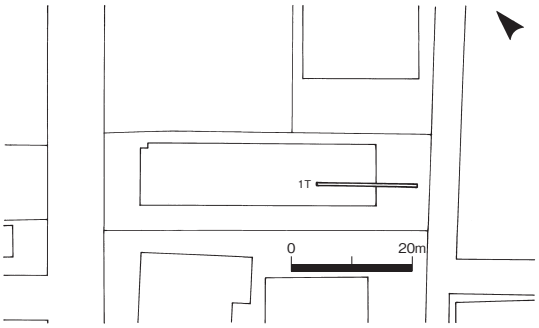
第14図　試掘調査位置図

第１節　平成26年度試掘調査概要

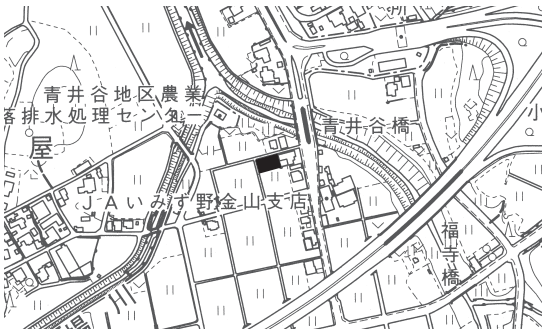
１．小杉伊勢領遺跡

所　在　地　射水市三ケ2566　外２筆
調 査 期 間　平成26年５月30日
調 査 面 積　対象面積：440.0㎡　発掘面積：17.0㎡
調 査 原 因　集合住宅建設
調査担当者　稲垣尚美
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　対象地の現況は駐車場であるが、元々は病院が在った場所である。土層は上から１層が茶褐色の盛土、２層が黒褐色の旧耕作土、３層が緑灰色粘質シルトの地山である。病院の建築又は解体時に旧耕作土及び地山が削平を受けており、遺構・遺物が確認されなかったことから、遺跡の広がりは見られない。

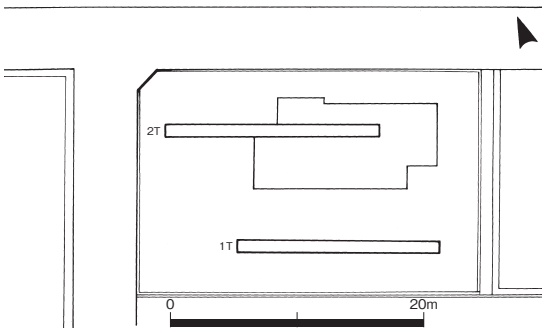


２．千田遺跡

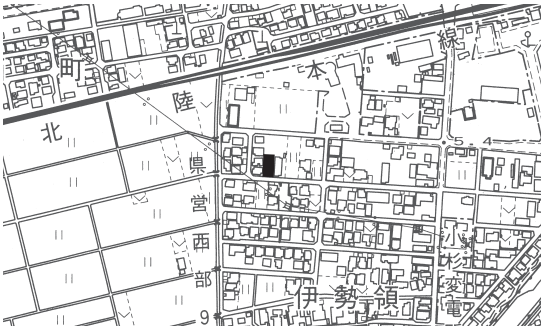


所　在　地　射水市青井谷92－１
調 査 期 間　平成26年６月10日
調 査 面 積　対象面積：473.0㎡　発掘面積：33.0㎡
調 査 原 因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　対象地の現況は水田で標高10.2ｍに位置する。土層は４層に細分され、地山は明緑灰色（7.5GY7/1）シルトである。北方約50ｍに下条川が流れており、地山層（旧地形）も川へ向けて下降していく谷状地形が確認された。また、遺物を包含する土層・遺構が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られないと考える。

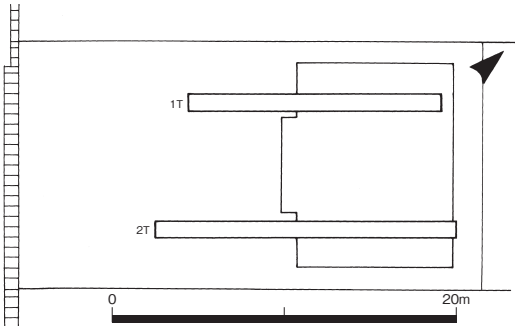


３．小杉伊勢領遺跡

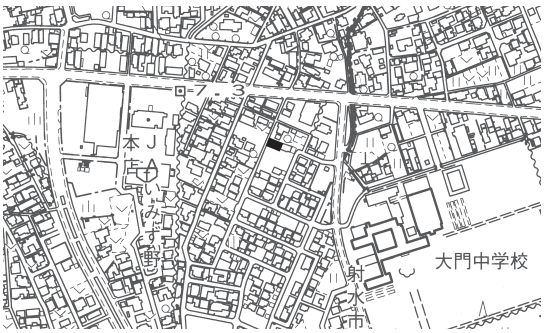


所　在　地　射水市三ケ2231－１
調 査 期 間　平成26年９月８日
調 査 面 積　対象面積：440.0㎡　発掘面積：32.4㎡
調 査 原 因　集合住宅建設
調査担当者　田中　明
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　対象地は遺跡包蔵地の北端、標高5.1ｍに位置する。土層は４層に細分され、地山は明緑灰色（10GY7/1）シルトであり、現況から深さ1.1ｍを測る。平成４年度、南東100ｍ地点で本発掘調査を実施し、縄文土器や弥生時代の遺構を確認していたが、今回の対象地には同時期の遺構・遺物は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。

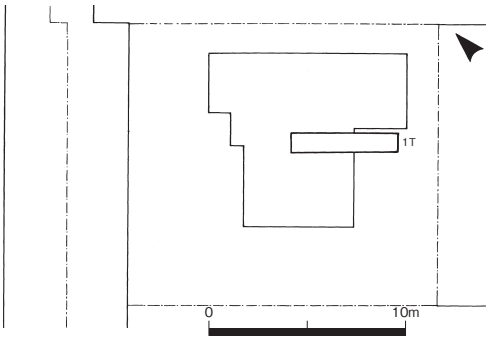


５．八塚Ｃ遺跡

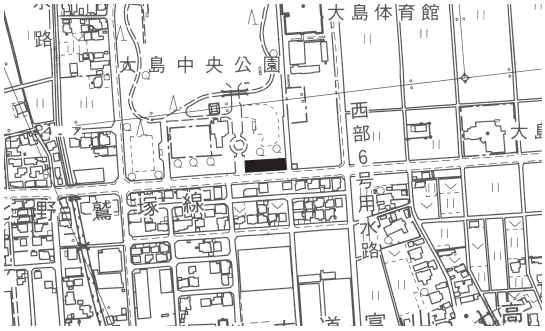


所　在　地　射水市八塚1100番１
調 査 期 間　平成26年９月24日
調 査 面 積　対象面積：227.64㎡　発掘面積：5.5㎡
調 査 原 因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　対象地の現況は造成地で、標高7.1ｍに位置する。土層は４層に細分され、地山は灰白色（7.5Y7/2）シルトである。平成10年度、南西30ｍ地点で本発掘調査を実施し、室町時代の寺院跡や区画溝などの遺構を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構や遺物を包含する土層が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。

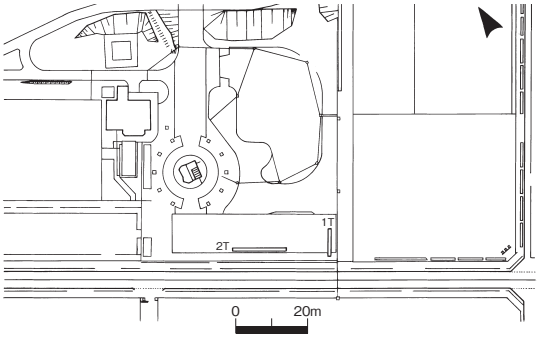


6．新開発遺跡

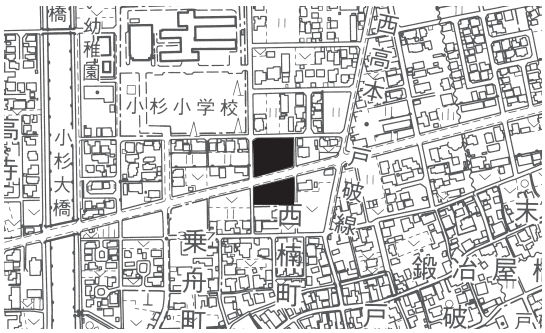


所　在　地　射水市新開発424
調査期間　平成26年10月８日
調査面積　対象面積：1,080㎡　発掘面積：25.5㎡
調査原因　駐車場整備
調査担当者　田中　明
検出遺構　なし
出土遺物　なし

調査概要　土層は上から１層がにぶい黄褐色の植栽表土、２層が明緑灰色砂礫の造成整地土、３層が灰色シルトの旧水田耕作土、４層が明オリーブ灰色（5GY7/1）粘質シルトの地山である。平成４年度、東側隣接地の試掘調査においても遺跡の広がりが見られなかったので、対象地を含む埋蔵文化財包蔵地の北側範囲を縮小した。

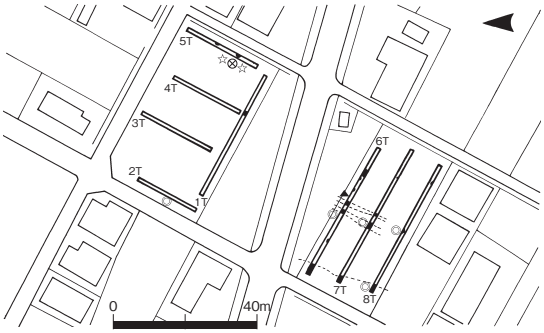


7．戸破神田遺跡（第15図・図版９）

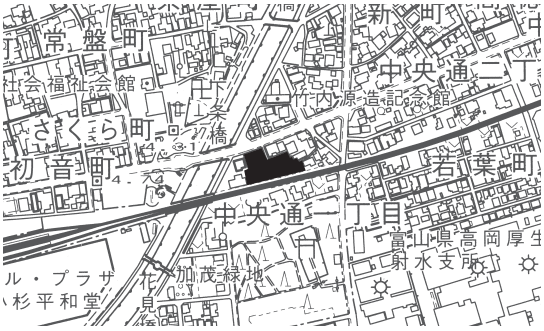


所　在　地　射水市戸破字神田4014番　外11筆
調査期間　平成26年10月15日・16日
調査面積　対象面積：3,916㎡　発掘面積：249.0㎡
調査原因　宅地造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　時期不明：溝３条・土坑10基
出土遺物　古代須恵器・近世陶磁器・不明土師器
不明石臼

調査概要　対象地は住宅地に残る水田で、標高2.9ｍに位置する。土層は３層に分けられ、地山は灰オリーブ色（5Y5/2）シルトである。遺構からの出土遺物は、近世越中瀬戸や時期不明のものが多く、覆土も水田床土であることから、近世以降の用排水路と考える。そのため、保護措置の必要なしと判断した。

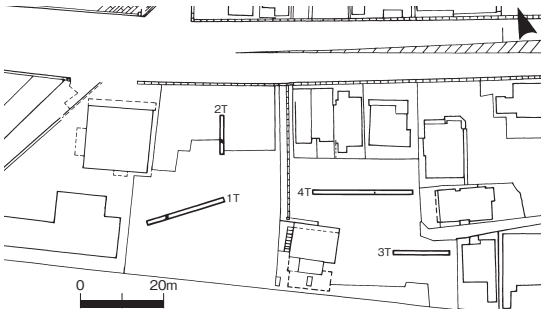


8．小杉焼高畑窯跡



所　在　地　射水市戸破4114番地
調査期間　平成26年10月28日・29日
調査面積　対象面積：2,381.84㎡　発掘面積：63.5㎡
調査原因　集合住宅建設
調査担当者　稲垣尚美・田中　明・金三津英則
検出遺構　時期不明：溝２条・土坑１基
出土遺物　なし

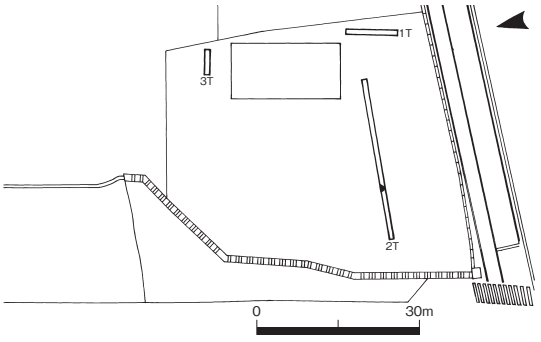
調査概要　土層は上から１層がにぶい黄褐色砂礫土、２層が黒褐色砂質土で共に造成盛土、３層が灰白色（10YR7/1）シルトの地山である。平成20年度、北東50m地点で試掘調査を実施し、小杉焼高畑窯で使用された窯道具や小杉焼片を確認していたが、今回の対象地に明治期の遺構・遺物が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。



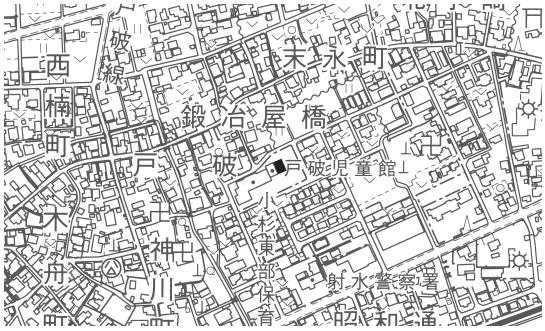
9．黒河尺目遺跡

所　在　地　射水市中老田新字星丸621－１　外12筆
調査期間　平成26年11月５日・18日
調査面積　対象面積：2,472.59㎡　発掘面積：45.5㎡
調査原因　店舗建設
調査担当者　田中　明
検出遺構　時期不明：土坑１基
出土遺物　なし

調査概要　対象地の現況は竹林で、標高10.5mに位置する。土層は表土直下がすぐ灰白色（5Y7/2）シルトの地山となる。平成２年度、南西30m地点で本発掘調査を実施し、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や溝などの遺構を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構や遺物を包含する土層が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。

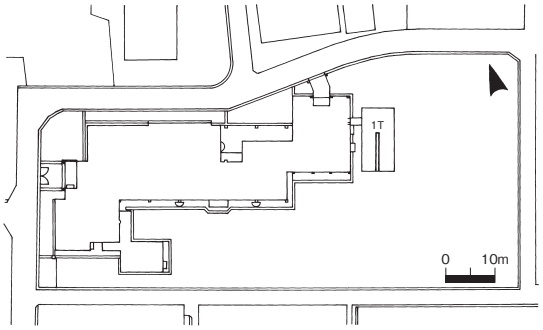


10. 戸破神川遺跡



所 在 地　射水市戸破2475番地
調査期間　平成26年11月11日
調査面積　対象面積：101.0㎡　発掘面積：8.0㎡
調査原因　放課後児童クラブ室建設
調査担当者　田中　明
検出遺構　なし
出土遺物　なし

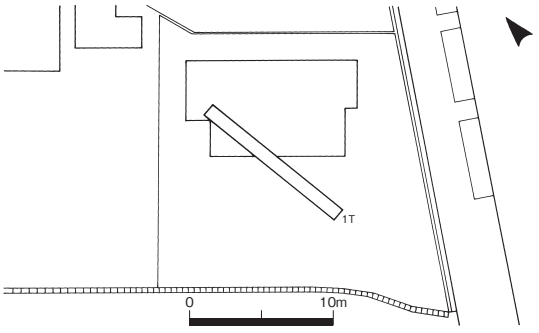
調査概要　対象地の現況は保育園駐車場で標高4.4mに位置する。土層は上から１層が灰黄色砂礫、２層が灰白色砂で共に造成盛土、３層が黒褐色シルトの旧耕作土、４層がオリーブ灰色（5GY6/1）粗砂の地山である。現況から深さ1.7m下の地山層は湧水が著しい。遺物を包含する土層や遺構が確認されなかったことから、遺跡の広がりは見られなかった。



11. 黒河尺目遺跡

所 在 地　射水市黒河字前田477　外２筆
調査期間　平成26年11月11日
調査面積　対象面積：372.0㎡　発掘面積：11.5㎡
調査原因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明
検出遺構　なし
出土遺物　なし

調査概要　対象地の現況は宅地内の庭地で標高8.8mに位置する。土層は４層に細分され、地山は明緑灰色（10GY8/1）シルトである。平成13年度、東側に隣接する県道の本発掘調査で検出された谷状地形へ繋がる落ち込みを確認したのみで、遺構や遺物を包含する土層は確認されなかった。保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

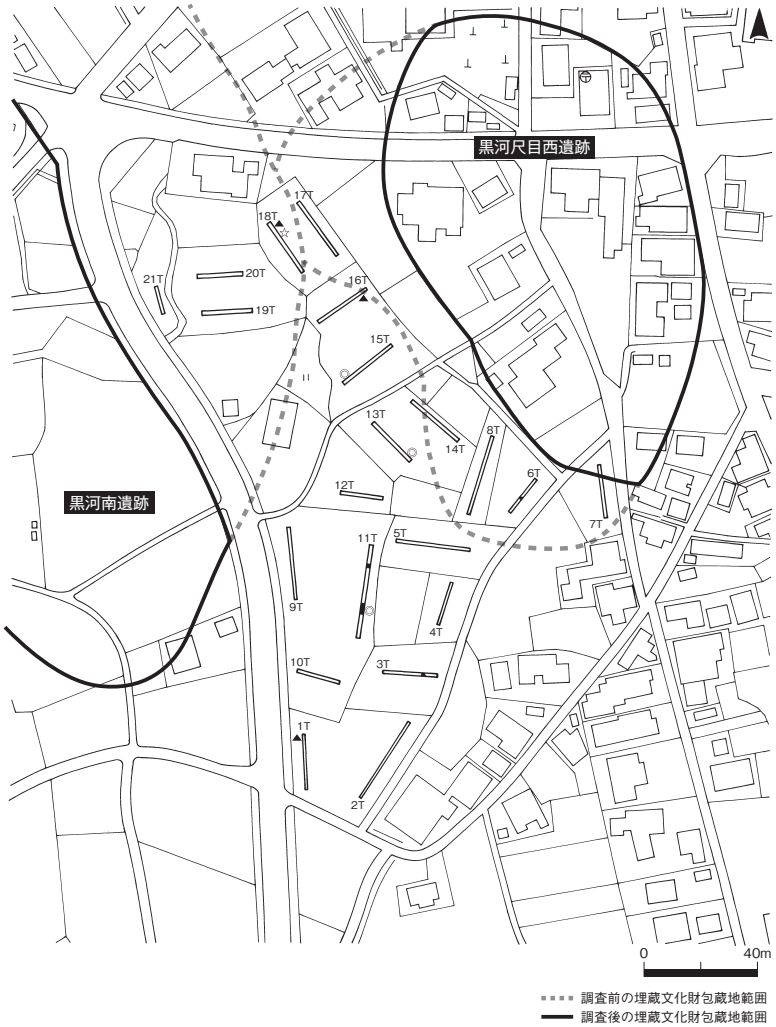


12. 黒河尺目西遺跡（第15図５～９・図版10）

所　在　地　射水市黒河字尺目3062番　外84筆
調 査 期 間　平成26年11月17日・18日
調 査 面 積　対象面積：13,367.23㎡　発掘面積：371.6㎡
調 査 原 因　宅地造成
調査担当者　稲垣尚美・田中　明・金三津英則
検 出 遺 構　時期不明：溝３条・土坑１基
出 土 遺 物　古代須恵器・近世陶磁器

調 査 概 要（１～17Ｔ）

11Ｔで検出した溝からは近世陶器が出土、覆土も耕作土の堆積が見られたため、近世以降の用排水路と考える。今回の試掘調査結果により、遺跡の広がりが見られなかった埋蔵文化財包蔵地の西側範囲を縮小した。



13. 黒河南遺跡（第15図４・図版10）

所　在　地　射水市黒河字尺目3007番　外９筆
調 査 期 間　平成26年11月19日
調 査 面 積　対象面積：3,098.8㎡　発掘面積：64.6㎡
調 査 原 因　宅地造成
調査担当者　稲垣尚美・田中　明・金三津英則
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　古代須恵器・不明土師器

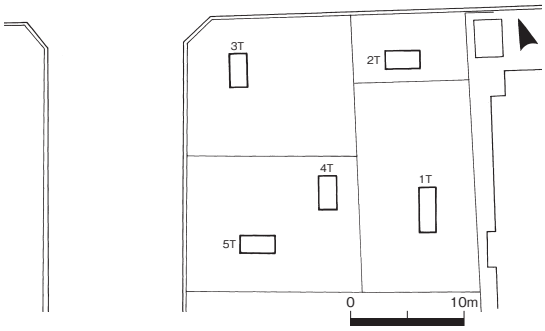
調 査 概 要（18～21Ｔ）

土層は３層に分けられ、地山は浅黄色（5Y7/3）シルトである。18Ｔ出土の遺物は耕作土からで流れ込みと考える。近隣地での試掘調査結果を精査して、遺跡の広がりが見られない対象地を含む包蔵地の北・東側範囲を縮小した。

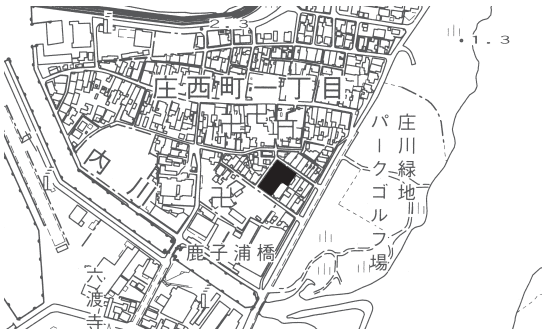
14. 金屋畑遺跡

所 在 地　射水市緑町15番１
調査期間　平成26年11月21日
調査面積　対象面積：624.36㎡　発掘面積：24.0㎡
調査原因　宅地造成
調査担当者　田中　明
検出遺構　なし
出土遺物　なし

調査概要　対象地の現況は造成地で標高1.7ｍに位置する。土層は上から１層が黄褐色山砂、２層が灰黄褐色砂礫で共に造成盛土、３層が褐灰色シルトの旧耕作土、４層が明緑灰色（7.5GY8/1）シルトの地山である。現況から深さ1.6ｍを測る。遺物を包含する土層や遺構が確認されなかったことから、遺跡の広がりは見られないと考える。

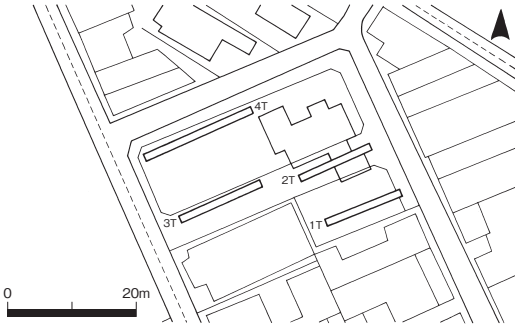


15. 六渡寺遺跡

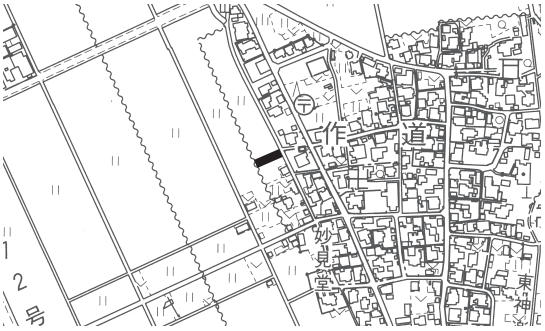


所 在 地　射水市庄西町一丁目634番１　外４筆
調査期間　平成26年11月27日
調査面積　対象面積：1,271.56㎡　発掘面積：54.4㎡
調査原因　宅地造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　なし
出土遺物　なし

調査概要　対象地は最近まで公民館が在った場所で標高2.2ｍを測る。土層は上から１層が灰黄色砂礫、２層がオリーブ褐色砂で共に造成盛土、３層が暗灰黄色シルトの自然堆積土、４層がにぶい黄色（2.5Y6/3）・黄褐色シルト（2.5Y5/4）の地山である。遺構確認は４層上面で行ったが、保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

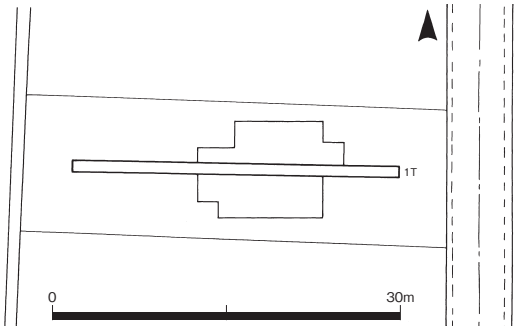


16. 作道遺跡

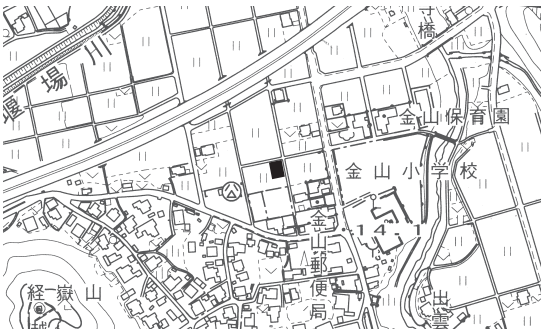


所　在　地　射水市作道456番
調 査 期 間　平成26年12月８日
調 査 面 積　対象面積：429.0㎡　発掘面積：28.0㎡
調 査 原 因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　対象地の現況は水田で標高0.4mに位置する。土層は１層が灰色の耕作土、２層が明緑灰色（5G7/1）シルトの地山である。平成17年度、北方270m地点で本発掘調査を実施し、弥生時代の遺構・遺物を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構や遺物を包含する土層が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。

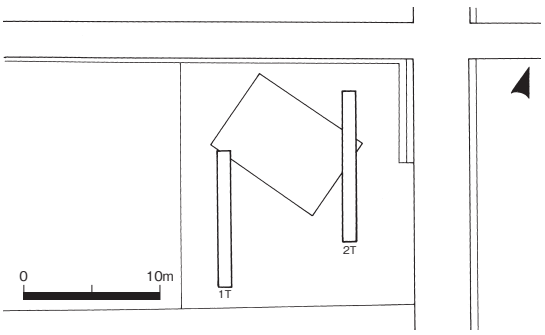


17. 干田遺跡

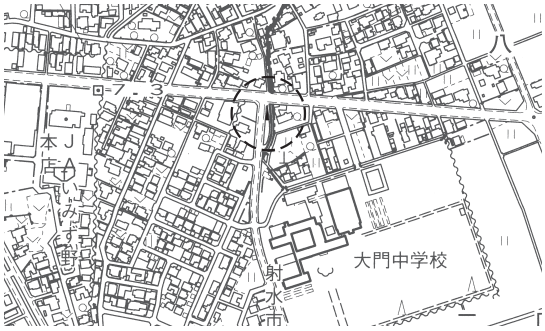


所　在　地　射水市青井谷131番１
調 査 期 間　平成26年12月８日
調 査 面 積　対象面積：272.0㎡　発掘面積：20.8㎡
調 査 原 因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　土層は上から１層が暗灰黄色の耕作土、２層が黄灰色シルトの自然堆積土、３層がオリーブ褐色シルト、４層が黒褐色シルトで共に腐植土、５層が明青灰色（5BG7/1）シルトの地山である。全域において腐植土層の谷状地形が広がっており、沼沢地にあたると考えられるため、保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

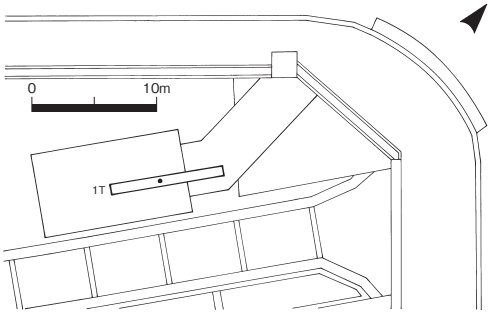


18. 八塚C遺跡



所 在 地　射水市八塚466－３
調 査 期 間　平成27年１月７日
調 査 面 積　対象面積：29.0㎡　発掘面積：9.0㎡
調 査 原 因　雨水幹線整備事業
調査担当者　稲垣尚美
検 出 遺 構　時期不明：土坑１基
出 土 遺 物　なし

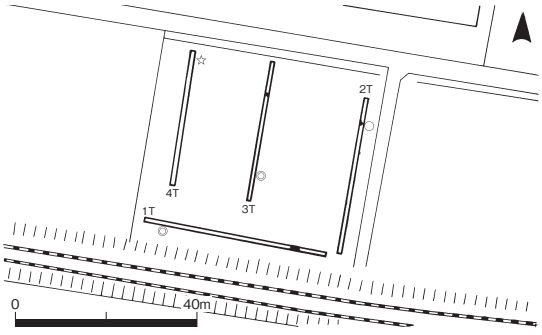
調 査 概 要　対象地は市道と排水路に挟まれた荒蕪地で標高6.8mを測る。土層は上から１層がにぶい黄褐色山砂の造成盛土、２層がオリーブ黒色シルトの自然堆積土、３層が暗オリーブ灰色（5GY4/1）シルトの地山である。検出遺構からの遺物はなく、時期不明である。遺物を包含する土層・遺構が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られない。



19. 針原東遺跡（第16図・図版11）

所 在 地　射水市手崎字針原308番　外２筆
調 査 期 間　平成27年１月16日
調 査 面 積　対象面積：2,492㎡　発掘面積：138.4㎡
調 査 原 因　作業工場建設
調査担当者　田中　明・金三津英則
検 出 遺 構　古墳時代：土坑１基
　　時期不明：溝１条・土坑１基
出 土 遺 物　古墳土師器・近世陶器・不明土師器

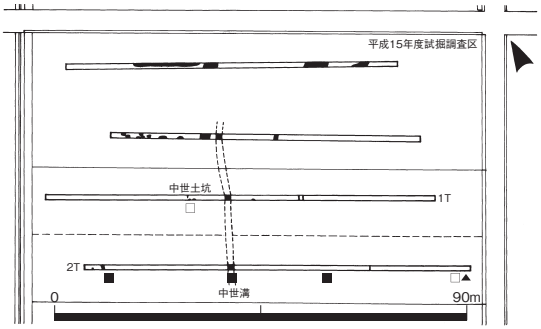
調 査 概 要　平成３年度、線路南側で本発掘調査を実施し、15世紀代の方形館跡や二重の堀跡を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺跡の広がりは見られなかった。また、２Ｔの土坑より古墳時代初頭の土師器（甕・壷）が出土したが、散発的な遺構と考え、周囲に保護措置が必要な埋蔵文化財はないと判断した。



20. 坂東遺跡（第15図・図版12）

所　在　地　射水市寺塚原662番　外１筆
調 査 期 間　平成27年２月20日
調 査 面 積　対象面積：3,000㎡　発掘面積：170.0㎡
調 査 原 因　資材置場造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検 出 遺 構　中世：溝１条・土坑３基
　　時期不明：溝４条・土坑２基
出 土 遺 物　古代須恵器・中世珠洲・中世土師器

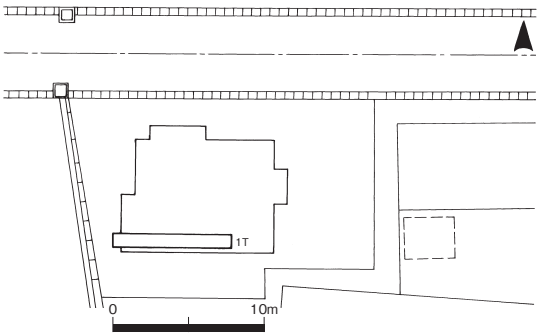
調 査 概 要　対象地中央部で検出した溝から珠洲が出土したため、中世溝と考える。この溝は平成15年度に北側隣接地の試掘調査で確認した溝に繋がる。また、１Ｔの土坑からも中世土師器が出土。遺物を伴う遺構が確認されたが、昭和40年代ほ場整備により遺存状況が悪いと考え、保護措置の必要なしと判断した。



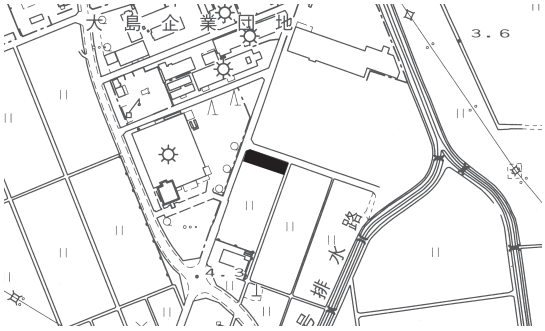
21. 塚越大沢遺跡

所　在　地　射水市塚越1279－３　外２筆
調 査 期 間　平成27年２月23日
調 査 面 積　対象面積：231.17㎡　発掘面積：7.8㎡
調 査 原 因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　対象地の現況は造成地で、標高11.8mに位置する。土層は３層に分けられ、地山は淡黄色（5Y8/3）粘質シルトである。平成３年度、南方60m地点で本発掘調査を実施し、奈良・平安時代の炭焼窯・製鉄炉や弥生時代の採土穴等の遺構を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構・遺物は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。

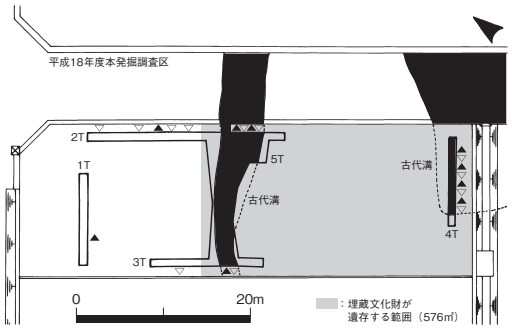


22. 北高木遺跡（第17図・図版13）



所 在 地　射水市北高木541番１
調 査 期 間　平成27年３月９日・10日
調 査 面 積　対象面積：947.0㎡　発掘面積：110.7㎡
調 査 原 因　資材置場造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検 出 遺 構　古代：溝２条
出 土 遺 物　古代須恵器・古代土師器・中世珠洲

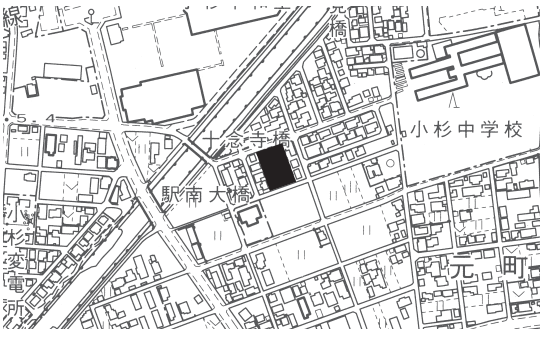
調 査 概 要　対象地の現況は水田で標高3.2mに位置する。須恵器や土師器を包含する古代溝２条を検出した。この溝は平成18年度に北側隣接道路の本発掘調査で確認した溝の続きであり、北側から対象地内へとのびる遺跡の広がりが見られる。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、保護措置となる記録保存（576㎡）が必要である。

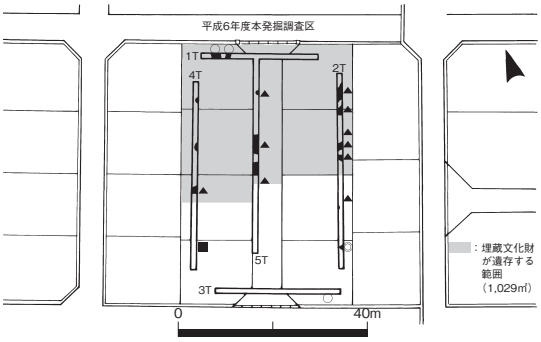


23. 加茂社遺跡（第16図・図版14）

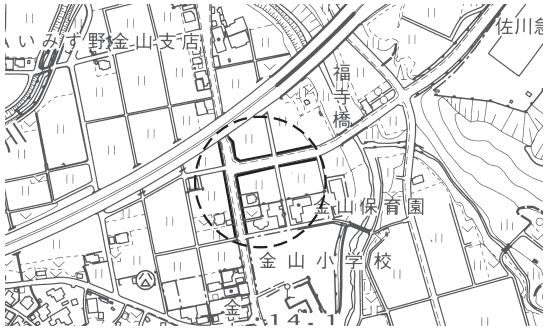
所 在 地　射水市三ケ2669　外１筆
調 査 期 間　平成27年３月25日
調 査 面 積　対象面積：1,947.87㎡　発掘面積：135.5㎡
調 査 原 因　宅地造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検 出 遺 構　古墳時代：溝2条　古代：溝6条・土坑1基
　時期不明：溝1条・土坑4基
出 土 遺 物　古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲
　近世磁器

調 査 概 要　対象地の現況は水田で、標高4.5mに位置する。土層は３層に分けられ、地山は灰色（7.5Y5/1）シルトである。北側半分域で遺物を包含する遺構を検出し、古墳時代・古代の遺跡が良好に遺存していた。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、保護措置となる記録保存（1,029㎡）が必要である。



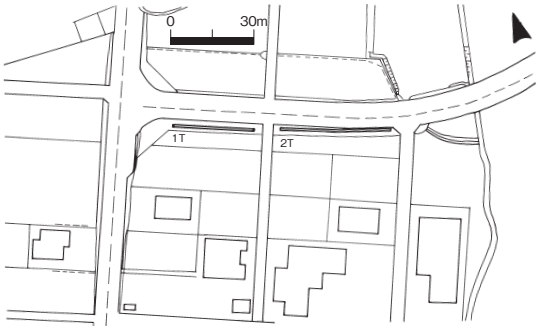


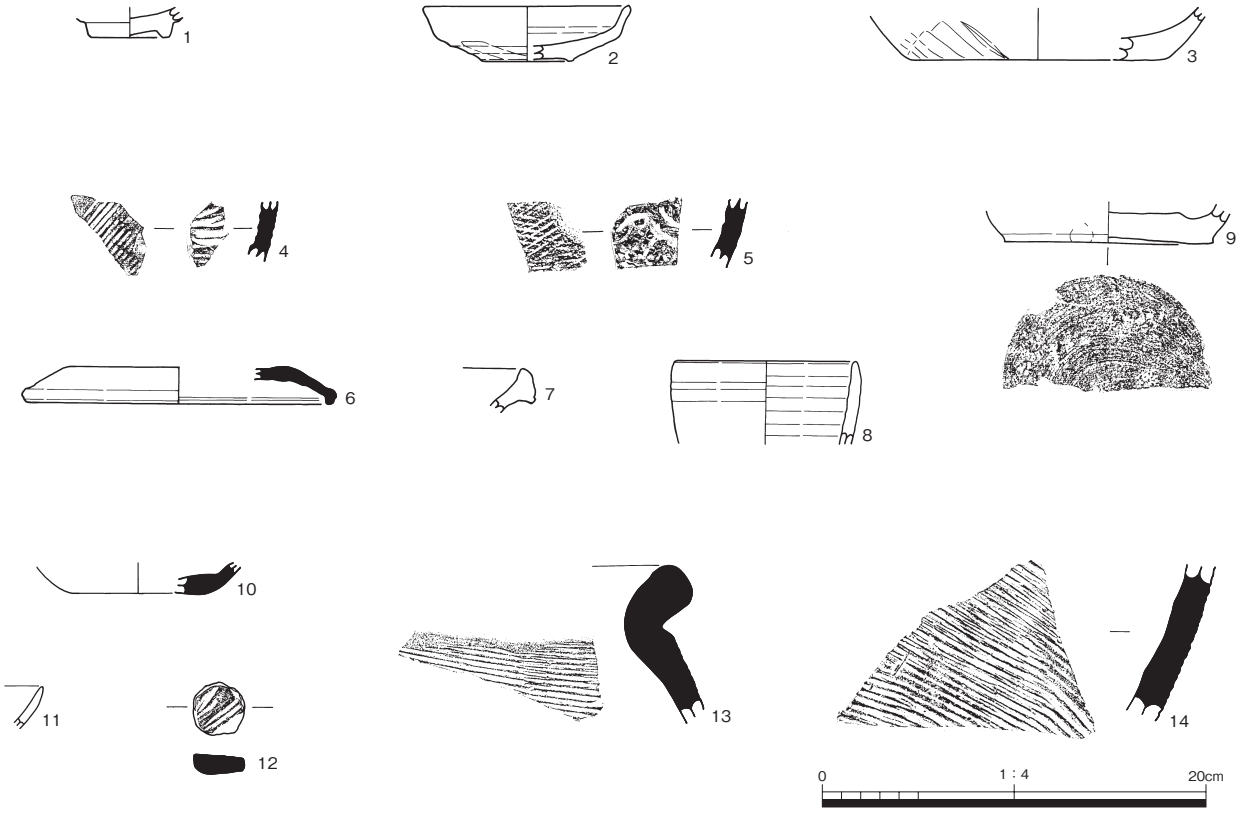
24. 干田遺跡



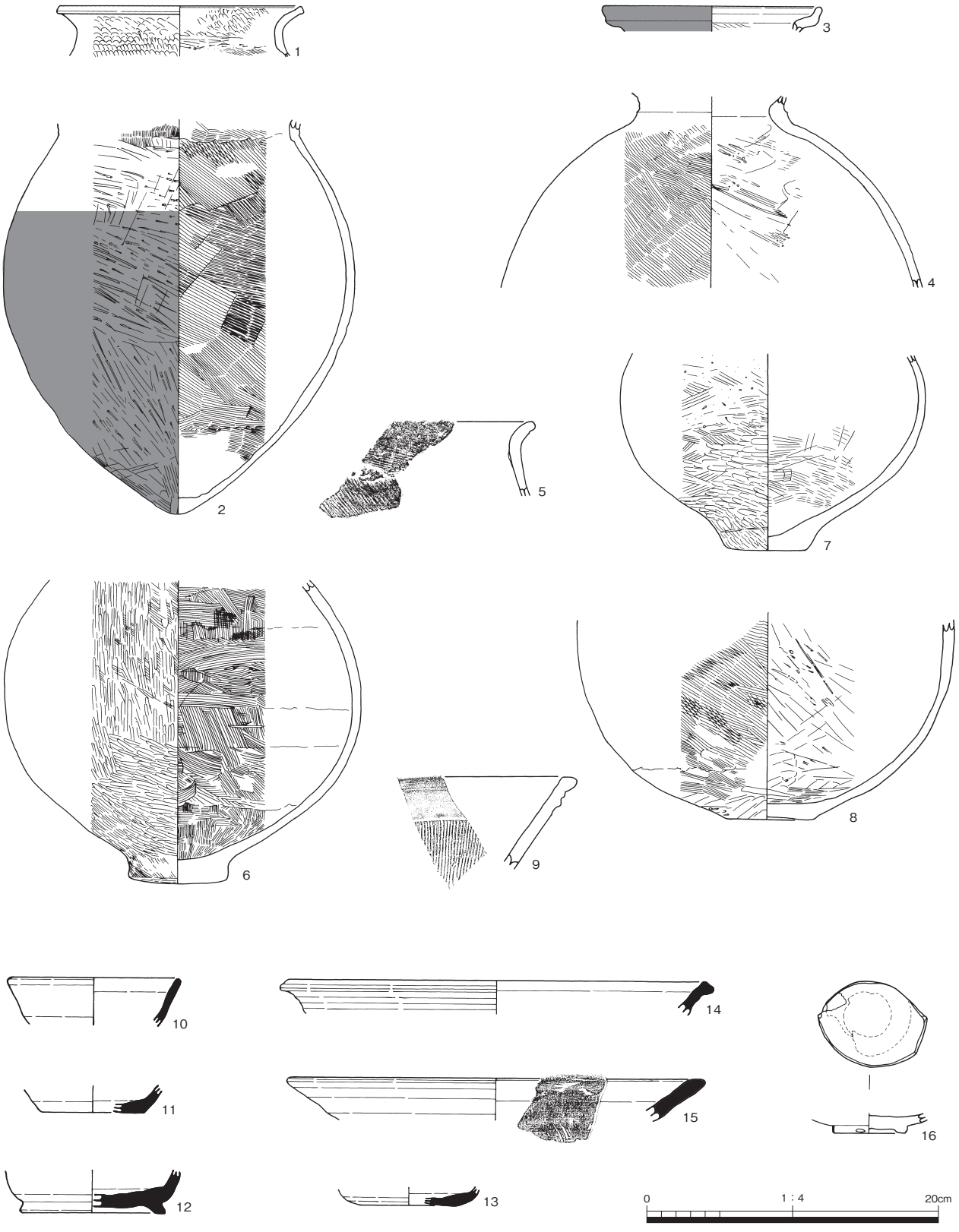
所 在 地　射水市青井谷16－１　外17筆
調 査 期 間　平成27年３月27日
調 査 面 積　対象面積：743.0㎡　発掘面積：42.0㎡
調 査 原 因　市道改良
調査担当者　田中　明
検 出 遺 構　なし
出 土 遺 物　なし

調 査 概 要　対象地の現況は水田で、標高11.8mに位置する。土層は３層に分けられ、地山は明オリーブ灰色（5GY7/1）粘質シルトである。平成20年度、南東50m地点で本発掘調査を実施し、弥生・鎌倉時代の溝・土坑を検出、遺物は弥生土器・珠洲・瀬戸美濃などが出土したが、今回の対象地に保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

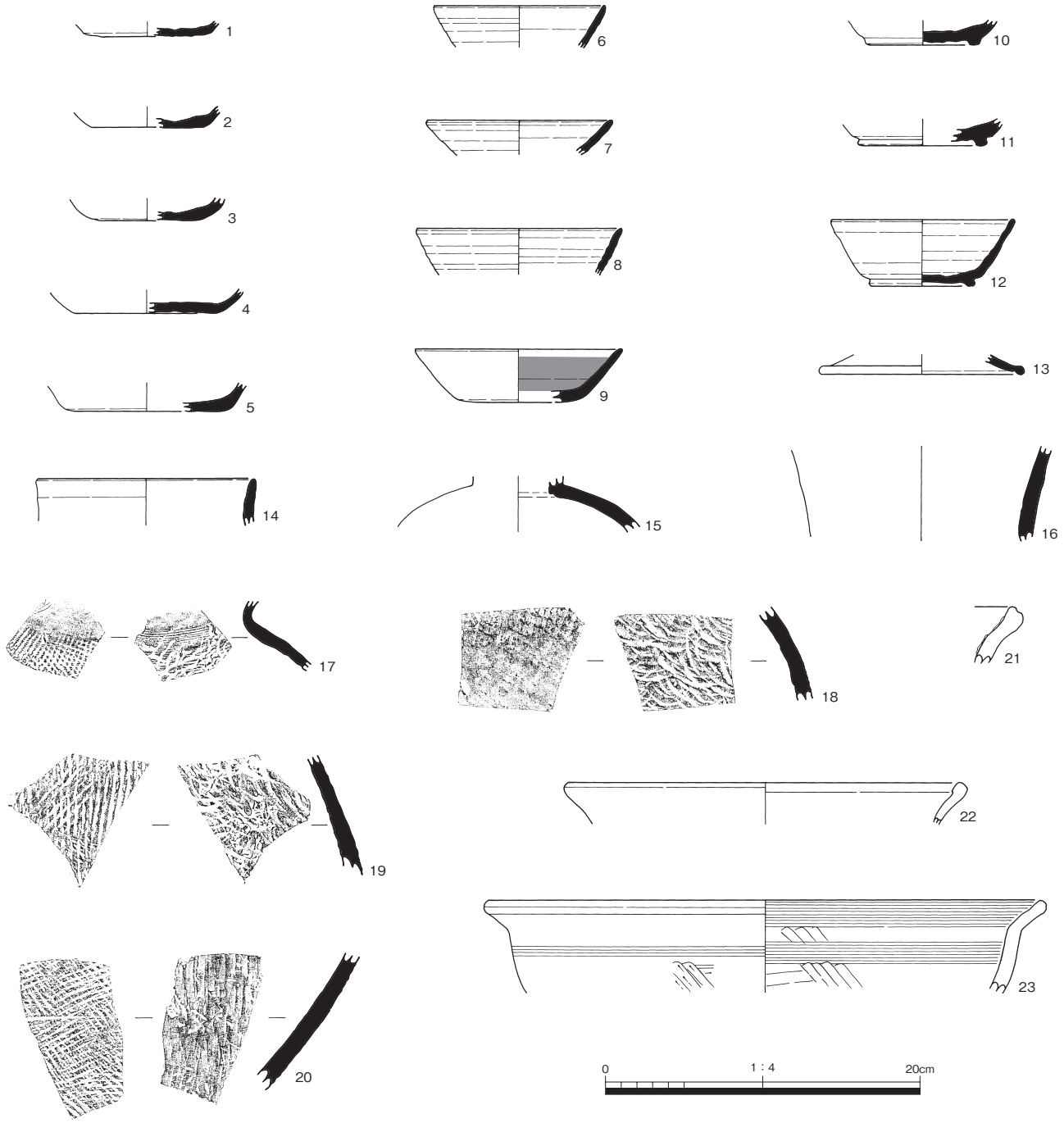




第15図　遺物実測図［戸破神田遺跡（1～3）・黒河尺目西遺跡（5～9）・黒河南遺跡（4）・坂東遺跡（10～14）］（1/4）



第16図　遺物実測図［針原東遺跡（1～9）・加茂社遺跡（10～16）］（1/4）



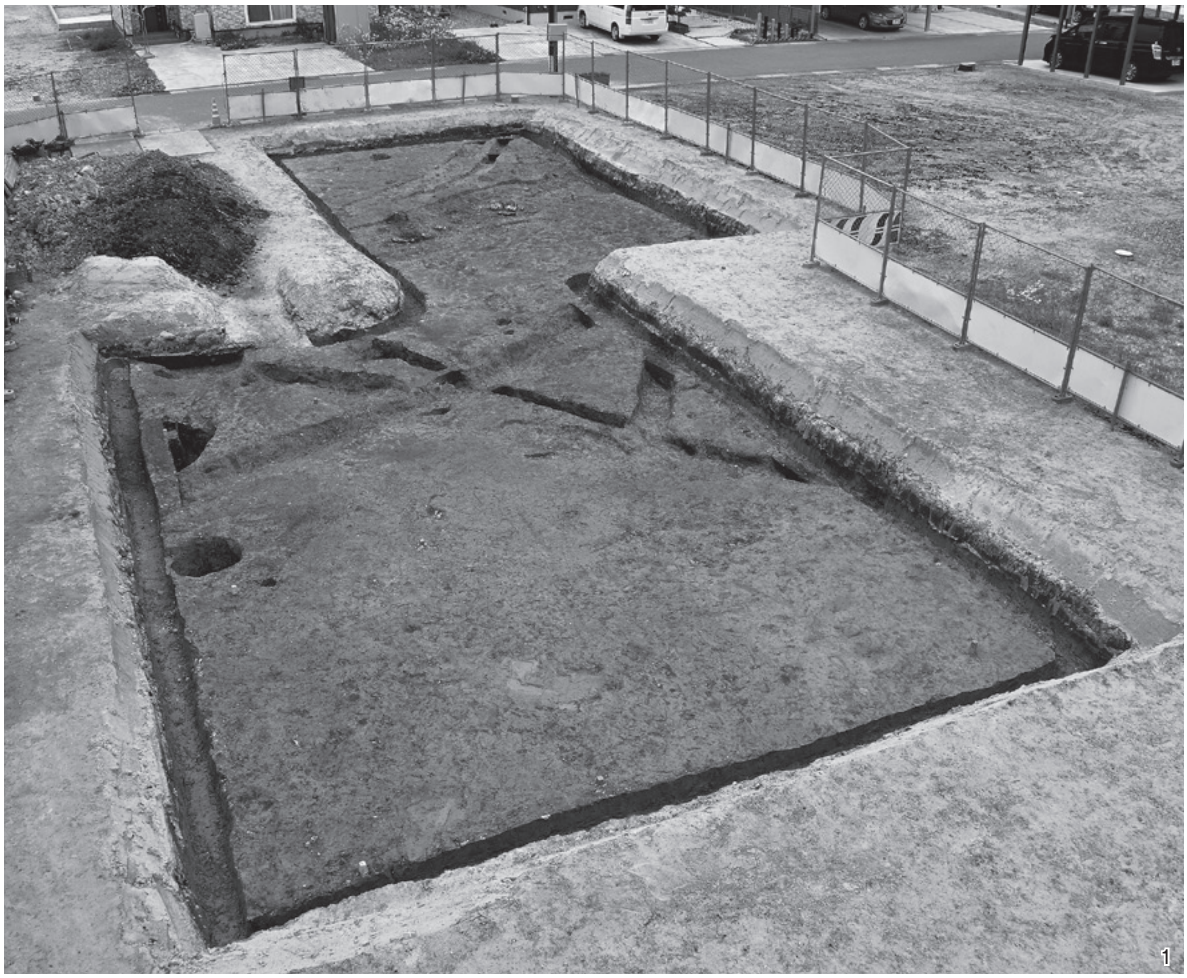
第17図　遺物実測図［北高木遺跡］（1/4）

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第15図	1	7T	越中瀬戸	碗			4.2	戸破神田遺跡　錆釉	底3/4
	2	6T	越中瀬戸	向付	10.6		5.0	戸破神田遺跡　灰釉	口1/2　体1/2
	3	8T	越中瀬戸	鉢			13.8	戸破神田遺跡　錆釉	底1/8
	4	18T	須恵器	甕(壷)				黒河南遺跡　青海波文	破片
	5	1T表採	須恵器	甕(壷)				黒河尺目西遺跡　青海波文	破片
	6	16T	須恵器	蓋	15.8			黒河尺目西遺跡	口1/8
	7	15T	越中瀬戸	鉢				黒河尺目西遺跡　錆釉	破片
	8	11T	不明陶器	碗	9.4			黒河尺目西遺跡　透明釉	口1/16
	9	13T	越中瀬戸	匣鉢			11.0	黒河尺目西遺跡　底外面煤付着	底1/2
	10	2T	須恵器	坏			7.0	坂東遺跡	底1/4
	11	2T	中世土師器	皿				坂東遺跡	破片
	12	2T	珠洲	面子				坂東遺跡	完形
	13	2T	珠洲	甕				坂東遺跡	破片
	14	2T	珠洲	甕				坂東遺跡	破片
第16図	1	2T	古墳土師器	甕	16.8			針原東遺跡	口5/16
	2	2T	古墳土師器	甕			1.0	針原東遺跡　外面煤付着	体3/4　底完存
	3	2T	古墳土師器	壷	15.0			針原東遺跡　外面煤付着	口1/8
	4	2T	古墳土師器	壷				針原東遺跡	体上部1/8
	5	2T	古墳土師器	甕				針原東遺跡　外面煤付着	破片
	6	2T	古墳土師器	壷			6.8	針原東遺跡	体4/5　底完存
	7	2T	古墳土師器	壷			5.3	針原東遺跡	体下部3/4　底完存
	8	2T	古墳土師器	壷			6.2	針原東遺跡	体下部2/5　底完存
	9	3T	不明陶器	すり鉢				針原東遺跡　錆釉	破片
	10	5T	須恵器	坏	11.6			加茂社遺跡	口1/8
	11	2T	須恵器	坏			7.2	加茂社遺跡	底1/4
	12	2T	須恵器	坏			10.0	加茂社遺跡	底1/4
	13	2T	須恵器	坏			6.8	加茂社遺跡	底3/16
	14	5T	須恵器	甕	28.6			加茂社遺跡　自然釉付着	口1/16
	15	4T	珠洲	片口鉢	28.2			加茂社遺跡　卸目	口1/16
	16	2T	不明磁器	碗			4.9	加茂社遺跡　緑釉　蛇の目釉剥ぎ	底完存
第17図	1	4T	須恵器	坏			8.2	北高木遺跡	底1/5
	2	3T	須恵器	坏			7.0	北高木遺跡	底1/4
	3	4T	須恵器	坏			7.1	北高木遺跡	底1/3
	4	4T	須恵器	坏			9.1	北高木遺跡	底1/4
	5	4T	須恵器	坏			10.5	北高木遺跡	底1/5
	6	4T	須恵器	坏	11.1			北高木遺跡	口1/8
	7	4T	須恵器	坏	11.8			北高木遺跡	口1/16
	8	4T	須恵器	坏	13.0			北高木遺跡	口1/16
	9	4T	須恵器	坏	13.3	3.4	7.9	北高木遺跡　内面煤付着	口1/8
	10	4T	須恵器	坏			7.3	北高木遺跡	底1/4
	11	4T	須恵器	坏			8.1	北高木遺跡	底1/3
	12	2T	須恵器	坏	11.6	4.3	6.6	北高木遺跡	口1/8　底完存
	13	4T	須恵器	蓋	12.8			北高木遺跡	口1/12
	14	4T	須恵器	壷	13.9			北高木遺跡	口1/16
	15	2T	須恵器	壷(瓶)				北高木遺跡　自然釉付着	破片
	16	4T	須恵器	壷(瓶)				北高木遺跡	破片
	17	4T	須恵器	壷(瓶)				北高木遺跡　青海波文	破片
	18	4T	須恵器	甕				北高木遺跡　自然釉付着	破片
	19	4T	須恵器	甕				北高木遺跡　青海波文	破片
	20	1T	須恵器	甕				北高木遺跡	破片
	21	4T	土師器	甕				北高木遺跡	破片
	22	4T	土師器	甕	25.3			北高木遺跡	口1/16
	23	3T	土師器	鍋	35.6			北高木遺跡	口1/16

第5表　出土遺物観察表［試掘調査］

口：口縁部　　底：底部　　体：体部

１．遺構全景
（東から）



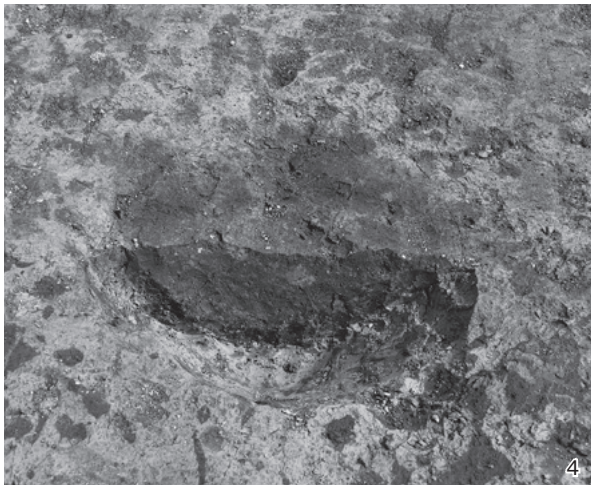
２．溝SD01
遺物出土状況
（北から）

図版２　高島Ａ遺跡〔11地区〕

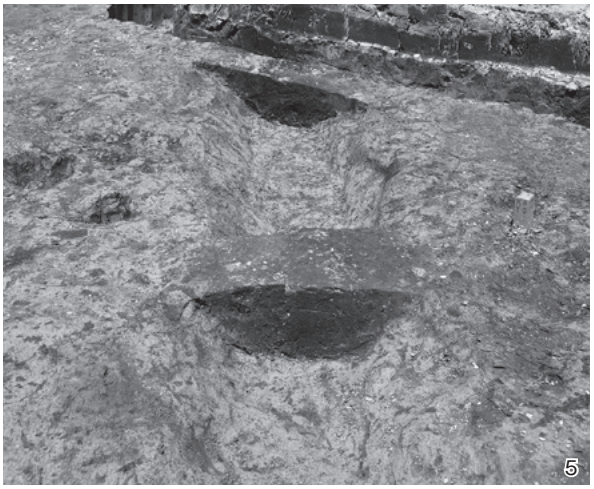
1．溝SD01A－A′
（南から）

2．同上B－B′
（北から）

3．溝SD02（右）
溝SD03（左）
（南から）



4．土坑SK05
（南から）



5．溝SD08O－O′
（南から）

6．溝SD10
（東から）

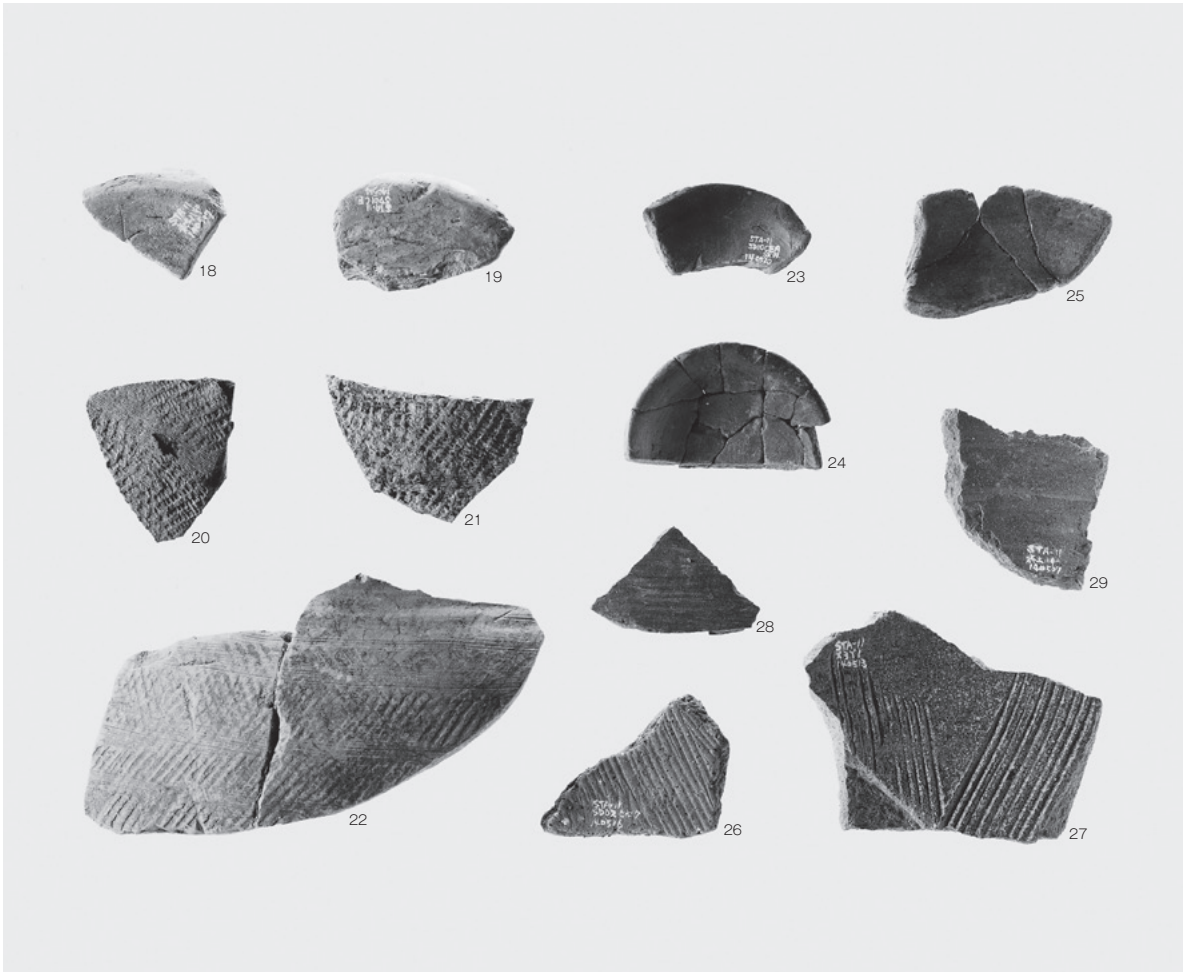
7．土坑SK12
（南から）

8．土坑SK15
（北東から）

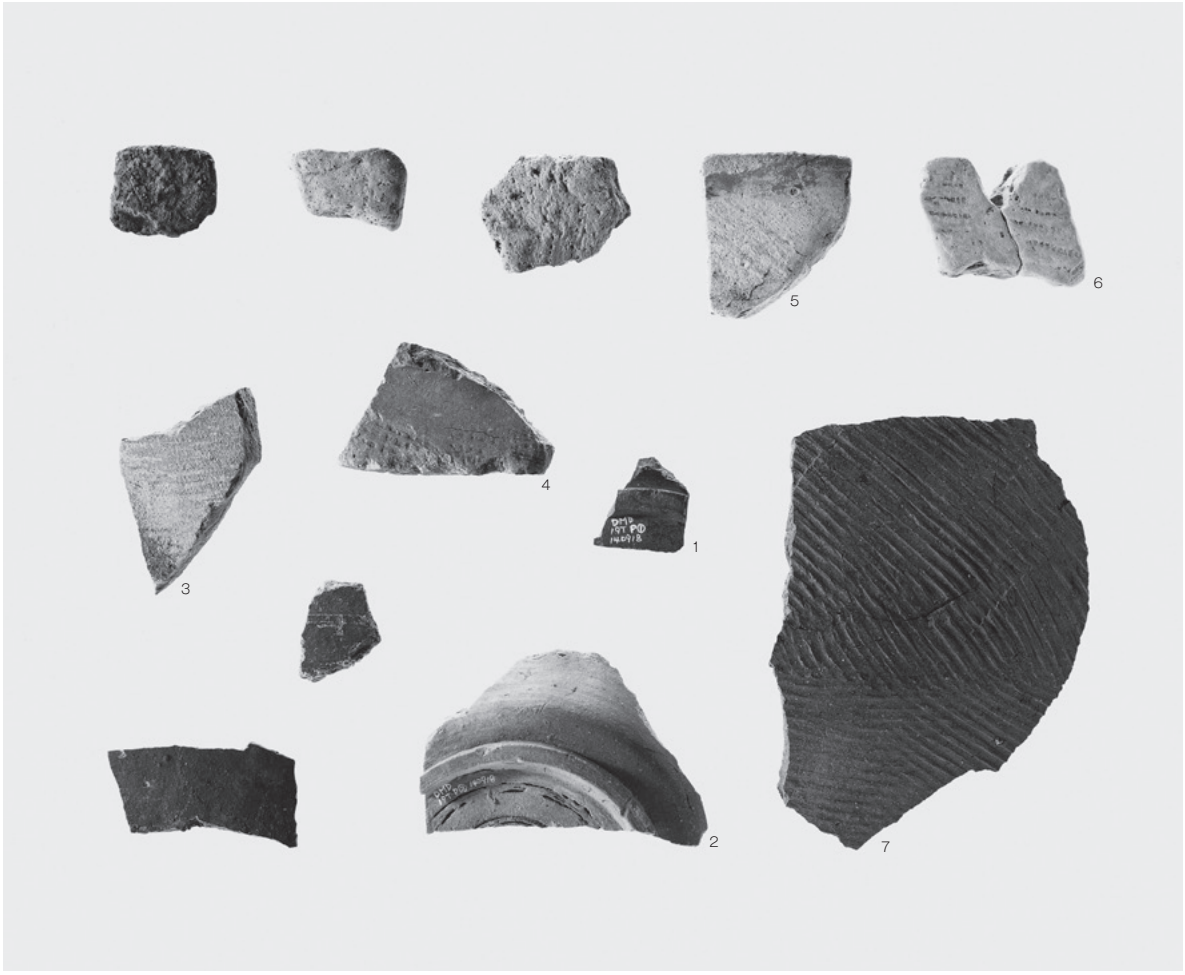
出土遺物
弥生土器
古墳土師器

弥生土器

図版４　高島Ａ遺跡〔11地区〕・水戸田地区試掘調査



高島Ａ遺跡〔11地区〕
出土遺物
　須恵器・珠洲
　中世土師器



水戸田地区試掘調査
出土遺物
　弥生土器
　須恵器・珠洲
　近世陶器

１．17T全景
（南から）

２．17T遺構検出
（南から）

３．作業状況
（南から）

図版６　水戸田地区試掘調査

１．19Ｔ全景
（北から）

２．19Ｔ遺構検出
（南から）

３．山砂充填状況
（北から）

１．半地下式炭焼窯
〔①地区〕
（西から）

２．同上（東から）

３．同上（南から）
煙出しから
遺物出土状況

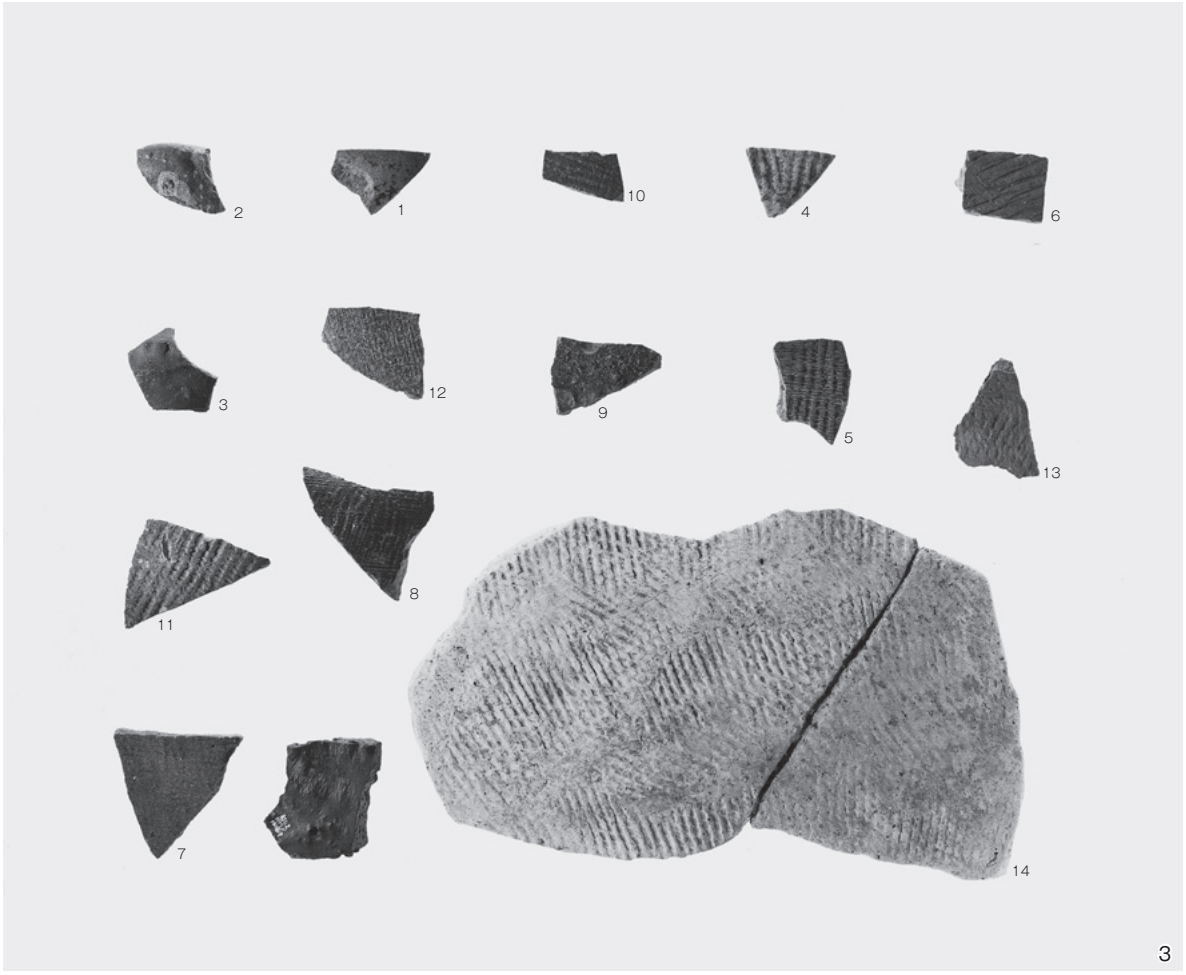
４．②地区全景
（東から）

５．③地区土坑
（北から）

図版８　天池Ｃ遺跡工事立会調査

1．地下式炭焼窯
〔③地区〕
（北から）

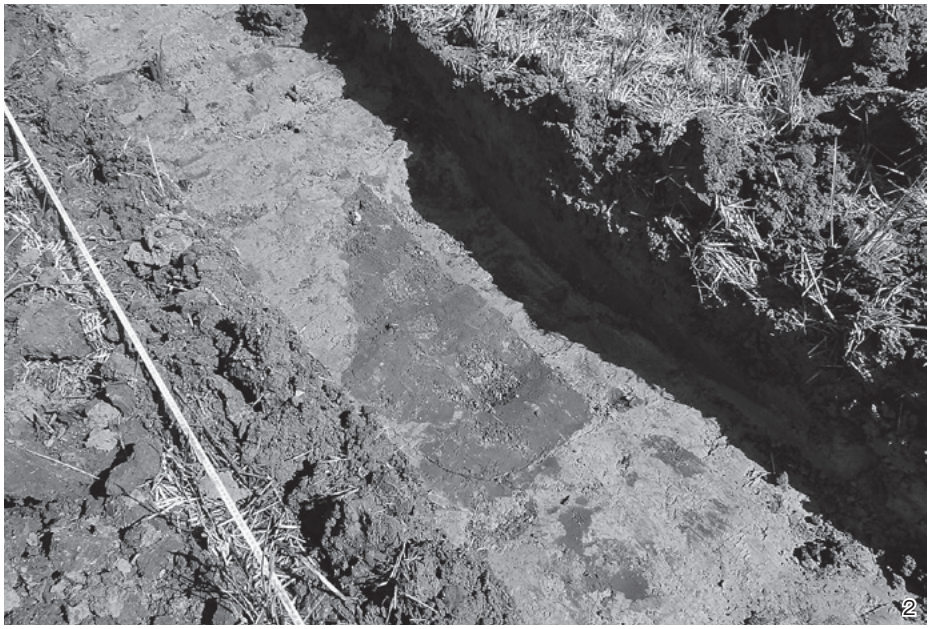
2．同上（南から）



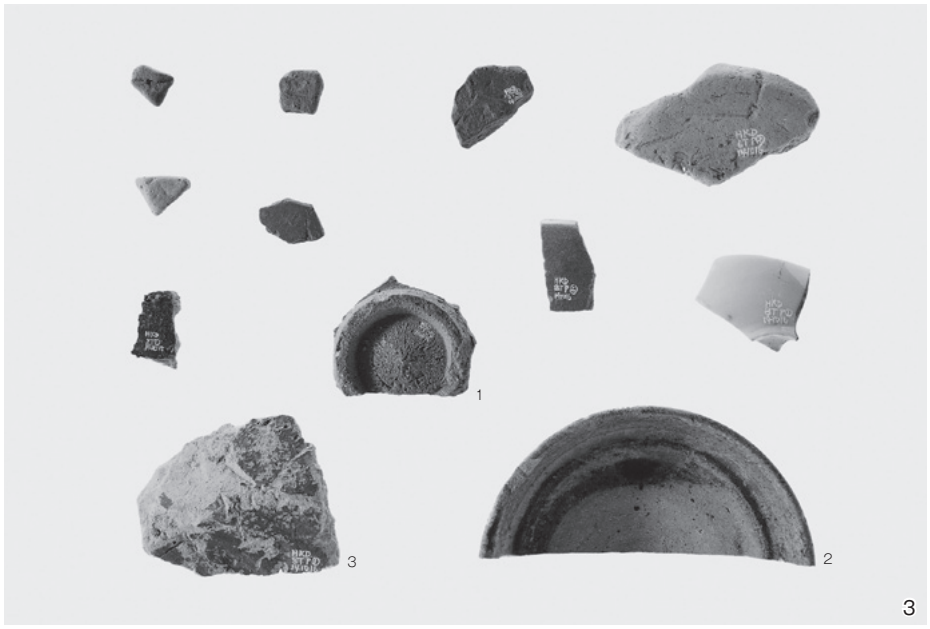
3．出土遺物
〔①・②地区〕
須恵器
鉄滓

１．６Ｔ全景
（東から）

２．５Ｔ遺構検出
（南から）

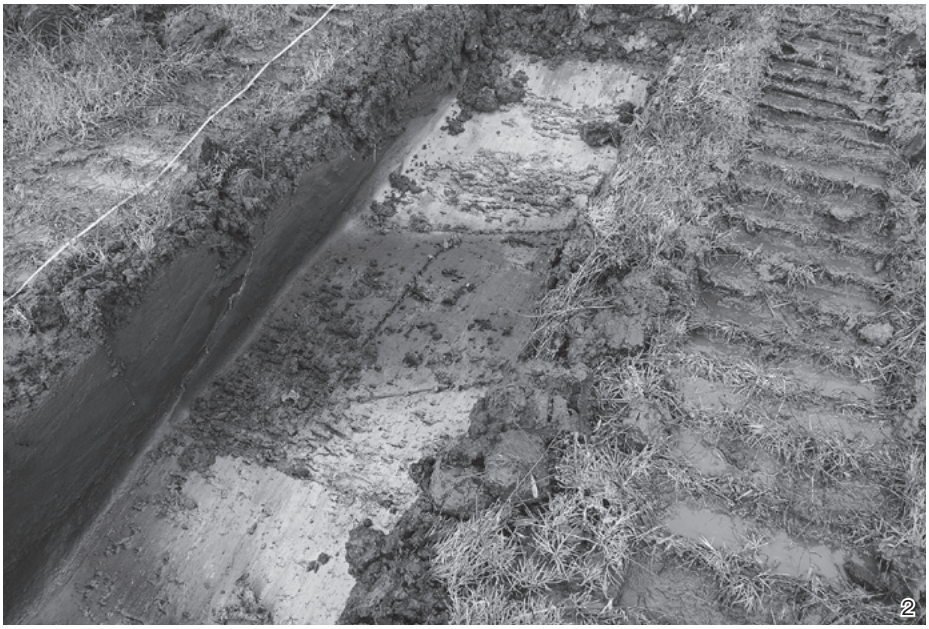


３．出土遺物
須恵器
土師器
近世陶磁器

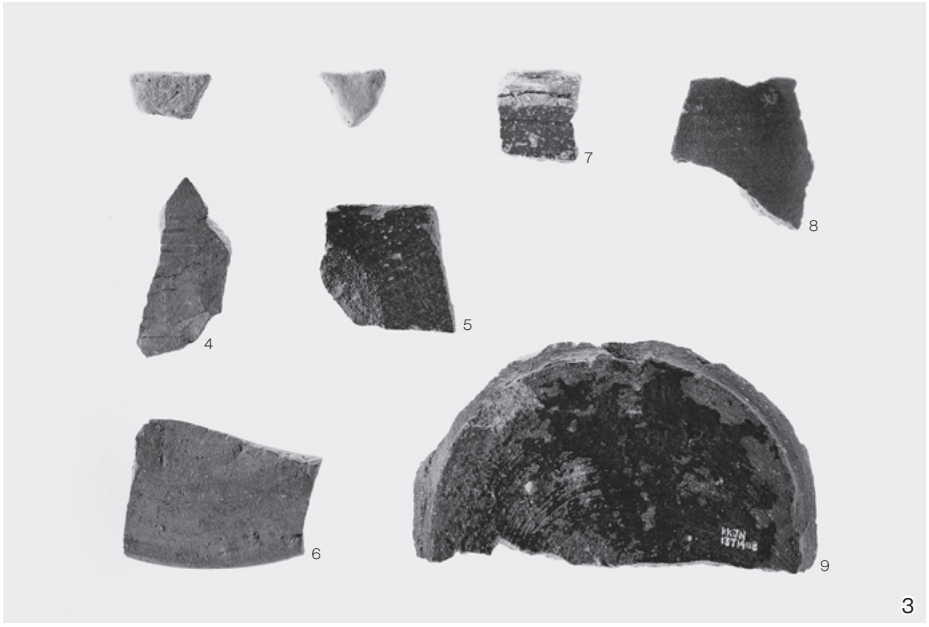


図版10　黒河尺目西・黒河南遺跡試掘調査

1．調査対象地全景
（南から）



2．6T遺構検出
（西から）

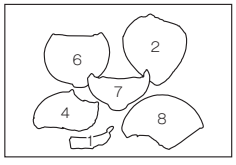


3．出土遺物
須恵器
土師器
近世陶磁器

1．調査対象地全景
（西から）

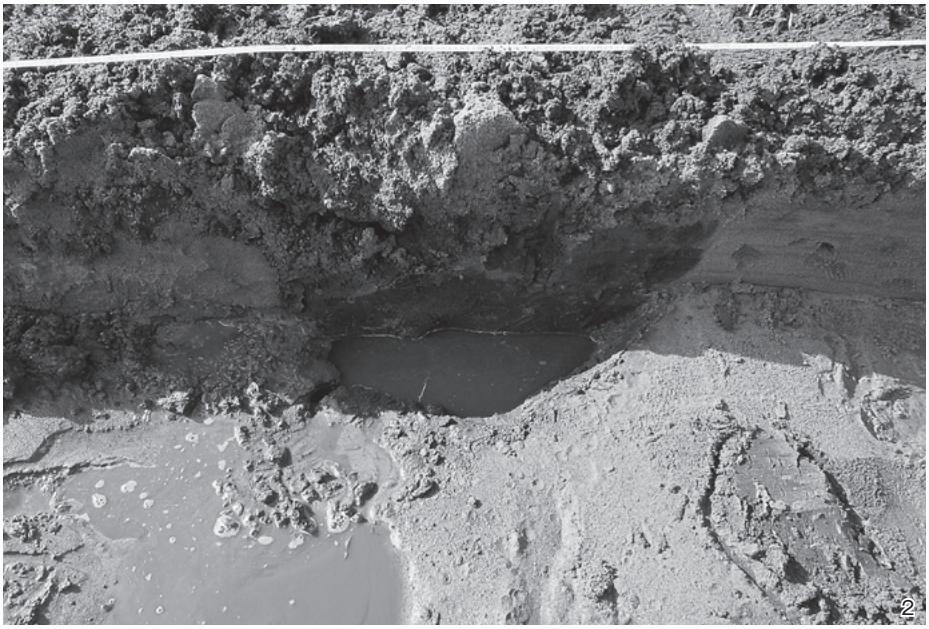
2．1Ｔ遺構検出
（北から）

3．出土遺物
古墳土師器

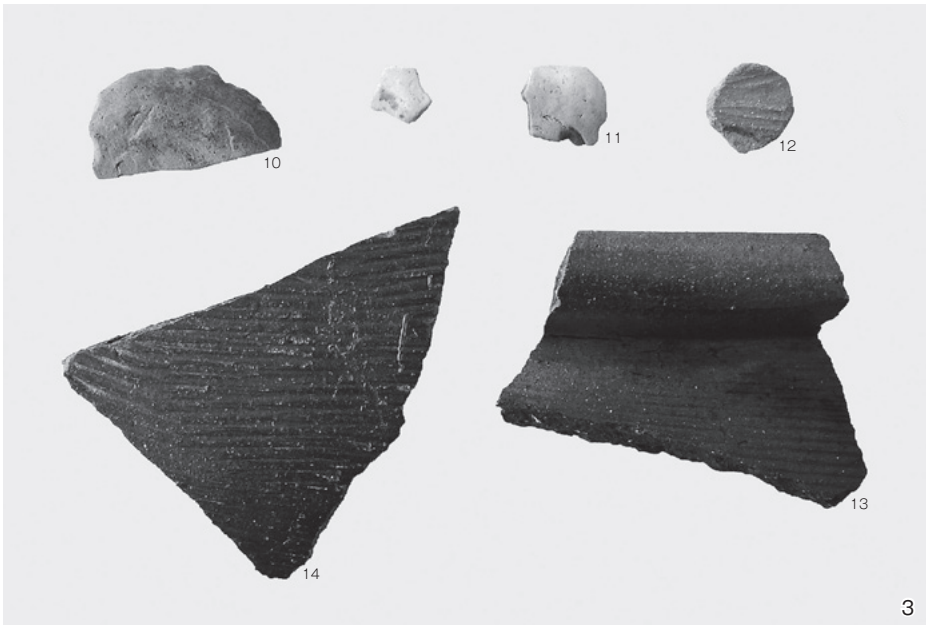


図版12　坂東遺跡試掘調査

1．2Ｔ全景
（西から）



2．1Ｔ遺構検出
（北から）

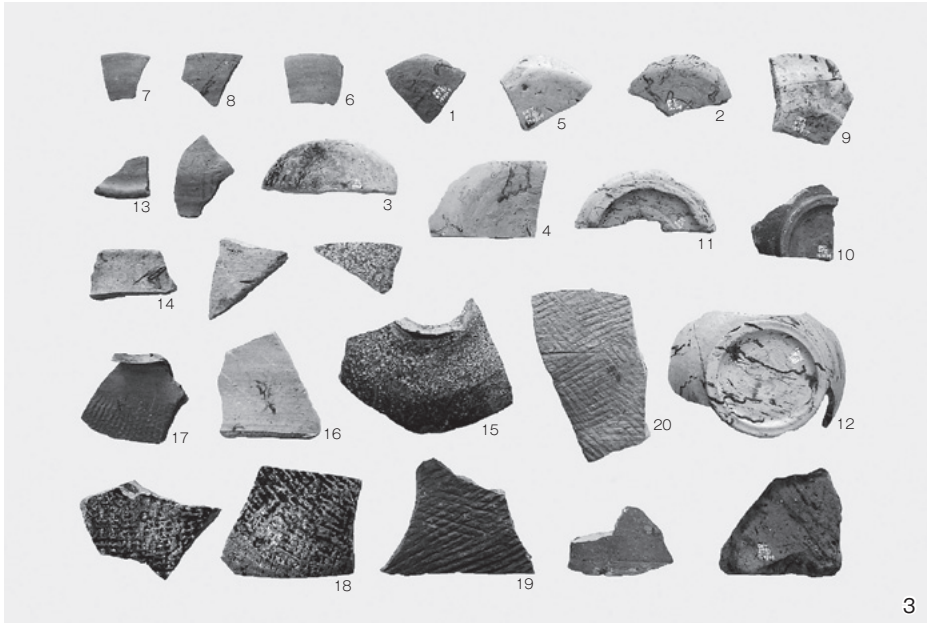


3．出土遺物
須恵器
珠洲
中世土師器

1．調査対象地全景
（西から）

2．3T遺構検出
（北から）

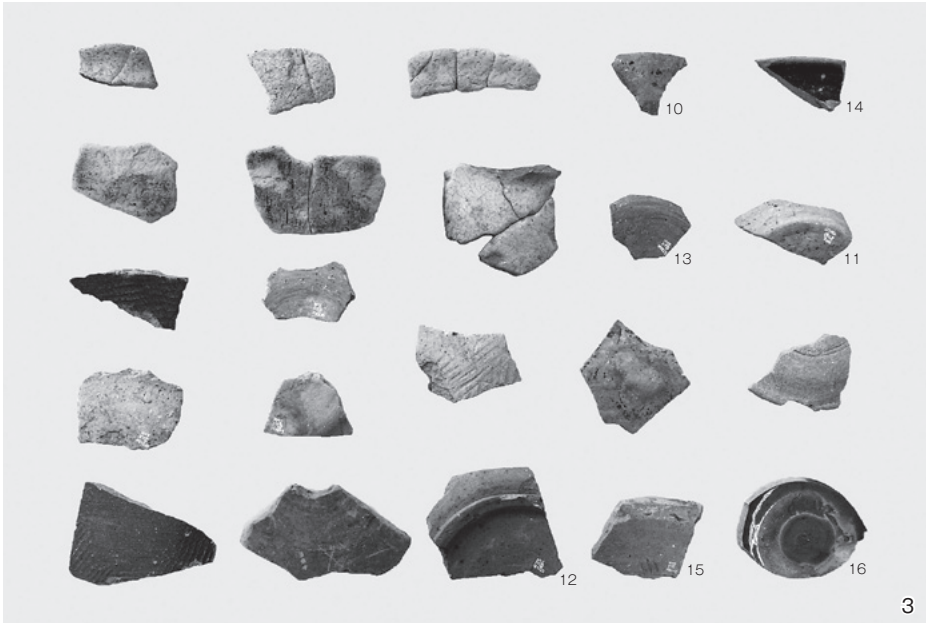
3．出土遺物
須恵器
珠洲



図版14　加茂社遺跡試掘調査

1．5T全景
（北から）

2．2T遺構検出
（南から）



3．出土遺物
古墳土師器
須恵器
珠洲
近世磁器

報告書抄録

ふりがな	いみずしないいせきはっくつちょうさほうこくはち
書名	射水市内遺跡発掘調査報告８
副書名	平成26年度高島Ａ遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他
編著者名	田中　明
編集機関	射水市教育委員会
所在地	〒933－0292　富山県射水市加茂中部893番地　TEL0766－59－8092
発行年月日	西暦2016年３月11日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
高島Ａ遺跡（たかしまえいいせき）	射水市鏡宮弥生（いみずしかがのみややよい）	211	027	36°45′15″	137°05′13″	平成26年度 20140507～ 20140528	191	個人専用住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高島Ａ遺跡	集落・散布地	弥生・中世	弥生溝・弥生土坑 古墳土坑	弥生土器・古墳土師器 古代須恵器・中世珠洲 中世土師器	

要約	栗林式土器(壷)の搬入品が弥生溝から出土した。

＊試掘調査の抄録は第４表を参照下さい。

射水市内遺跡発掘調査報告８

－平成26年度高島Ａ遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他－

2016（平成28）年３月11日　発行
編集・発行　射水市教育委員会
〒933－0292
富山県射水市加茂中部893番地
TEL0766－59－8092
印　　刷　能登印刷株式会社